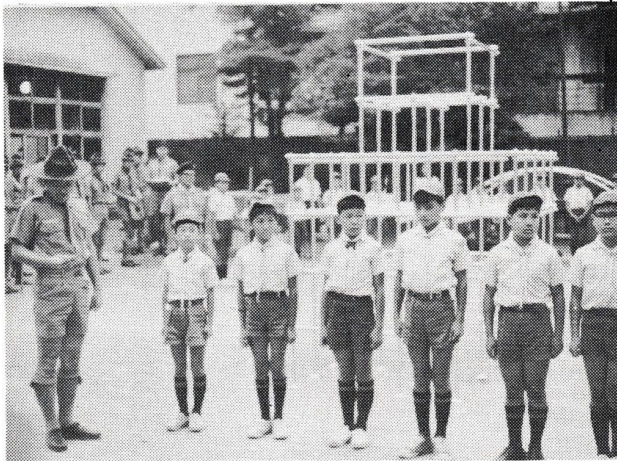






東京港 1 団 カブスカウト 隊

創 立 2 5 周 年 記 念 誌



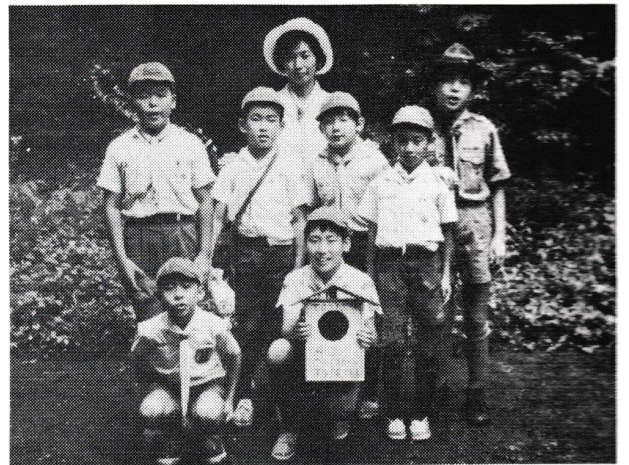
43年度 上進式
菊地副長と安藤リーダー



1964年志賀高原
杉原隊長と高橋(徹)副長



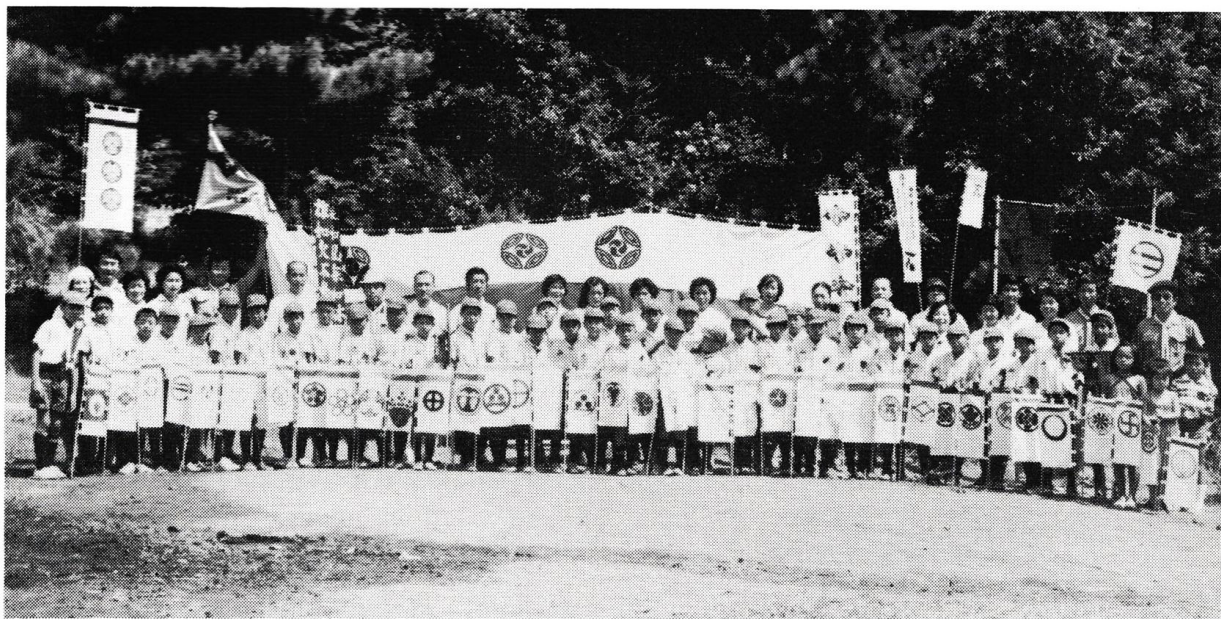
1973年 カブキャンプ
於 道 志 川



1965年 カブキャンプ東山荘
大内リーダーと安西リーダー(元1組)



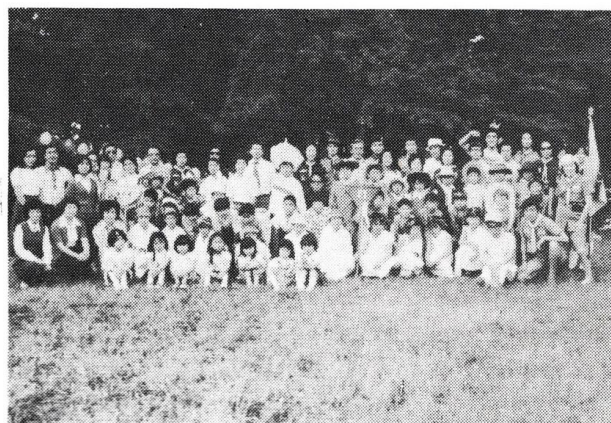
昭和50年5月10(土)
カブスカウト入団式



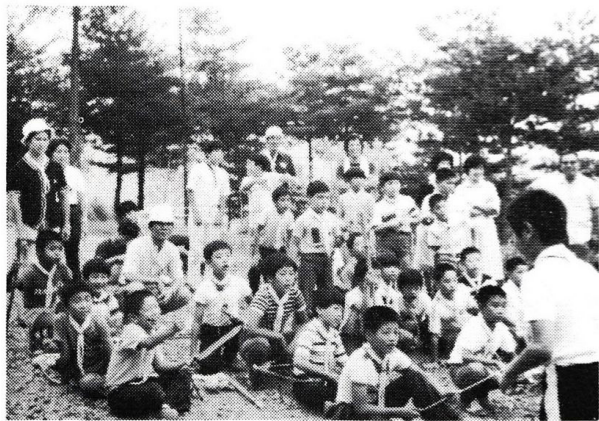
1978年 戦国の武将たち
修善寺にて



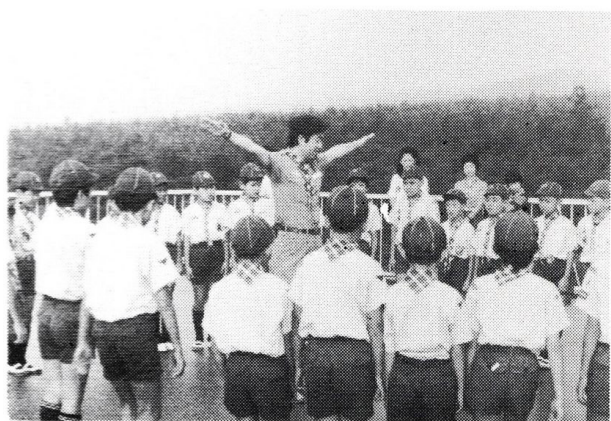
1977年 カブのオリンピック



1977年春 特別隊集会
カブのオリンピック

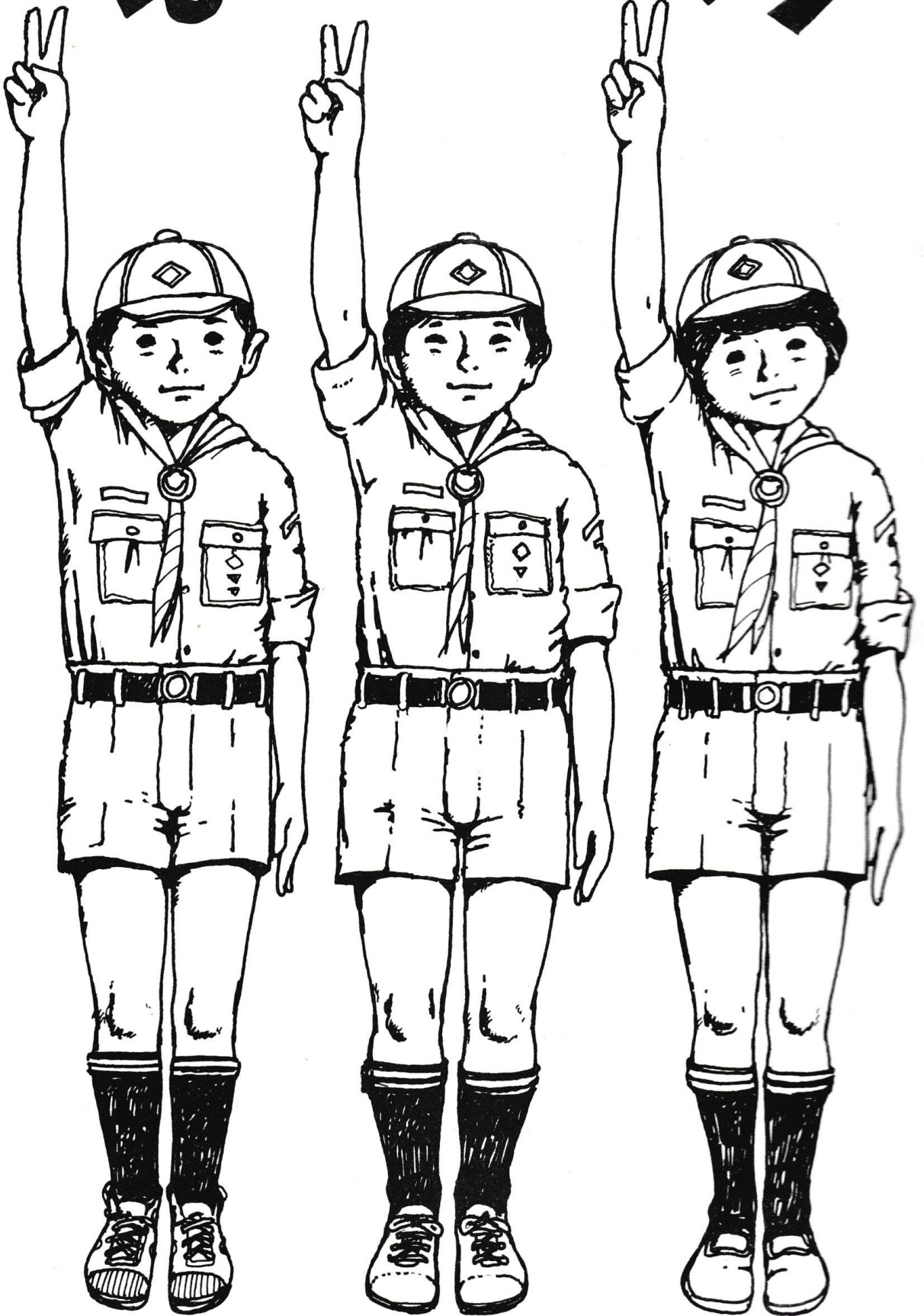


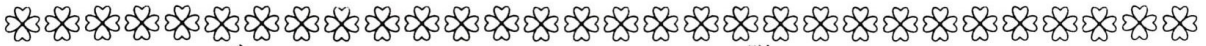
1979年 忍者の森
於 上田 武器くらべ



1977年 ロビンフットのほうけん
セレモニーの練習 八ヶ岳にて

ぼくらのピク





目次

心をはきしめて……………	飯	表紙	山本三知也
神さまに喜ばれるスカウトに……………	小崎忠雄……………7	山本三知也	
発隊当時の想い出……………	今田富士雄……………8	葛西れい子	
君はカブになってへんしんしただろうか……………	飯田貞雄……………9		
隊長のページ	親子どんぶり		
二代・十代隊長……………	一組……………25		
杉原正……………10			
一代隊長……………	二組……………33		
志水功……………11			
三代隊長……………	三組……………40		
萬石俊夫……………12			
秩父にて……………	四組……………49		
城所繁子……………13			
五代隊長……………	五組……………57		
友常明子……………14			
八代隊長……………	リーダーのページ		
糸井国雄……………15	あれこれ……………		
池沢一之……………16	二十五周年によせて……………		
デンマザーのページ	カブ隊の想い出……………		
長井静江……………17	浦野須磨子……………65		
大室洋子……………17	高橋徹次……………66		



心をひきしめて

牧師 飯 清

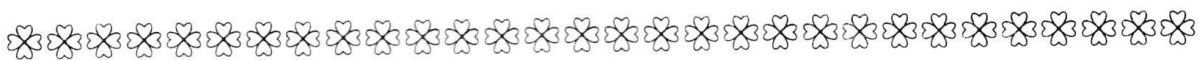
カブが二五年を迎えました。ブラウニーも二五年になりました。合わせて五十年ということ。そして霊南坂教会は今年に創立して一〇〇年のお祝いをしました。

たしかに一〇〇年は長い時でした。しかし神様はこの長い間、私たちを導いて下さいました。いろいろの事件もありましたが、神様は私たちを許し、恵みを与えて、この喜びの日を迎えさせて下さいました。

一九二三年の大地震の時にも礼拝堂は倒壊しませんでしたし、一九四五年の大空襲の時にも、この附近は焼野原になりましたが、教会は無事でした。

しかし、私たちが何をしても、どんな生き方をしていても、神様がいつも私たちを守っていて、いつさいの災害からのがれさせて下さるといつてもいいのでしょうか。神様は愛にみちた優しい方だと、安心して、勝手な生き方をしてもいいのでしょうか。

いいえ、私たちは神様が「愛」であられるとともに「正義」でもあられることを信じ、



ほんとうに神様のお心にかなうような生き方をしなくてはなりません。

第四団のうたの中に「この世に平和をもたらすのだ」「この世に光をかかげるのだ」とありますが、これからの二五年、五〇年、そして一〇〇年を、この世に光をかかげ、平和をもたらすために、神様のお心になつた生き方をするスカウトになりたいと切に願うものです。

カブ二五年、そして霊南坂教会一〇〇年のこの嬉しい年に、心をひきしめて、新しい気持ちで再出発したいものです。

(港一団育成会長)



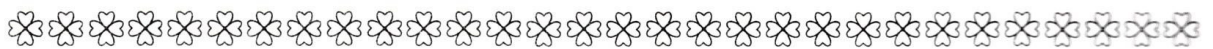
神さまに喜ばれるスカウトに

団委員長 小崎 忠雄

一番小さいスカウト!!、カブスカウト隊東京港一団発足二十五周年の歩みを心からお祝い致します。二十五才と云えば、社会の中で大人として機能的に働らく大切な時期です。きつと、どこの隊に比べる事の出来ない独特な内容を持っていて、今日の日があると思います。

私達には一人一人生立ちがあるように、人は、自分の今日あるのは、沢山の方のあたたかいみまもりの中に育った履歴を持って人生を歩みます。自分ほどの様に大切に育てられたかを知る事で、自分を大切に又、関って下さった人々を覚え、そして神様に感謝して、正直に責任のある社会人、公民に育つ事が、きつと出来る皆さんだと思います。

霊南坂教会を育成団体として、初代隊長として一生懸命カブスカウト活動に奉仕された志水功さんを忘れる事が出来ません。今は、遠く北海道で、動物達のお医者さんとして働いています。発足当時は、医学部の大学生で、お医者さんになるためには沢山の勉強を



しなければならぬ時にも、カブスカウト一人一人を大切に、集會に休まず楽しい計画、互いに助け合う友情、そして神様に愛されるスカウトとなるよう、キリスト教の信仰を持って関って下さいました。又丁度その時、隊長を助けていたのは、現在の隊長、杉原正さんです。杉原さんも、霊南坂教会で育ち、子供の時から教会学校の生徒であり、スカウトとして育ちました。今は国際キリスト教大学生で、大学生のお世話をしています。又日本全体のスカウト運動の連盟の指導者養成のために奉仕されています。

此のカブ隊で少年時代楽しくすごした人達は、今や、日本国内ばかりか世界に、それぞれ、良き働き人として成長しています。

特に小さい時に学んだスカウト精神を一身に付けて多くの人達が社会に働らくよう、この日に覚え、祈ります。又すべての事を神様に感謝いたします。

♡宗教とは「教えられる」ものでなく「とらえられる」もののだといえる

(B-I-Pのことばより)

発隊当時の想い出

ローパー班隊長 今 田 富士雄

カブ隊ももう二十五年たったのですね。

その頃は、どんなだったかなと私は当時の「スマイル」や四団の記念誌にある年表を出してみました。

それから東京連盟の事務局に行って、その当時の登録書を見ました。そこには一九五四年六月十三日申請、十五日登録とありました。隊長志水功、スカウト安藤尙之以下二十四名でスタートしその年に十二名が追加されて居ました。

その中には、団委員の柳さんと日下部さん、ロスアンゼルスの大田さん、ニューヨークの大浜さん。

フォークシンガルの草分けのマイク真木、その他にも、萬石、大島、犬飼……となつかしい名前が沢山ならんでいました。

ボーイスカウト運動はイギリスでスタートし（一九〇七）、スカウトのまねをしたがる小学生の為にウルフカブが九年後に出来ましたが。

我が四隊でも発隊六年後の一九五三年四月



のリーダー会議で入隊希望の小学生を「見習い」という形で発隊以来のメンバーである志水副長、杉原副長補、遠山隊付が担当して集会をBSとは別に持ちましたが、プログラムは、BS的でした。

その後、日本連盟事務局の日野女史にお手伝を願って、カブのプログラムを初めたのです。

初代のデンチーフは、小林隆、木下忠昭（守ンフランシスコ在住）で二人とも十四回世界ジャンボリー（フィリッピン）に参加しています。

その年のBS隊キャンプには、月の輪組十六名も参加し貴重な体験をしました。

志水隊長は、翌年四月に、北海道に獣医として行かれましたが、一九五七年の四団十年記念の団歌を作詞作曲してくれました。

志水隊長はいつまでもスカウトの先輩として、団歌とともに四団のBS・GSとともに居ることでしょう。志水さんありがとう。

東京連盟理事として、東京全体のスカウト達の為にがんばっておられます。

君はカブになって、
へんしん、しただらうか

飯田 貞雄

ぼくは、港一団のせんばいのひとりとして、
君たちにきいてみたい。

質問1「カブスカウトになって、君の行ないやふるまいはかわりましたか」

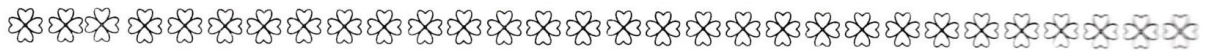
もし、「ノー」と答える人がひとりでもい
れば、その人はカブスカウトの制服をきてい
るマネキン人形のような子どもということに
なると思う。

だから、答えは、全員そろって「イエス」
だろう。そこで、「イエス」と答えた人にも
ういちどきいてみたい。

質問2「それでは、君の行いやふるまいは
どんなふうにかわりましたか」

残念ながらこの質問についての答えを、君
たちひとりひとりから、きくわけにはいかな
いけれども、きつとそれは、カブスカウトら
しい答えがたぐさんかえってくるだろう。

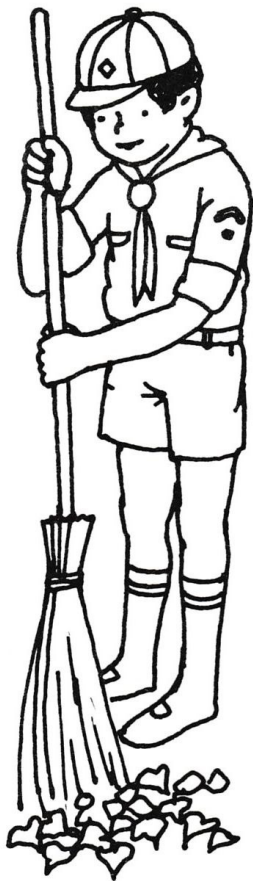
たとえば、まえには、しなかつたバスや電
車のなかで、おとしよりに席をゆずることが、
カブになってからできるようになったとか、



いままで、みんなお母さんにやってもらって
いた身のまわりの整理がひとりのできるよう
になったということかも知れない。どうか、
「ぼくは、このようにかわりました」と胸を
はつていえるなにかをもっている君であつて
ほしい。

ぼくは、いま四十六才になったが、スカウ
トのとき決心してから、三十年以上も守りつ
づけてきたことがひとつある。それは、けっ
して、ほこるようなことではないけれども、
「絶対に、紙くずやゴミをきまつたところ以
外ではすてない」ということだった。いまで
は、すっかり習慣になつていたので、ほとん
どによかつたと思つている。

カブスカウトである君たちが、カブ隊二十
五周年をキツカケにして大いに「へんしん」
してほしいとねがつている。(元ボーイスカウ
ト隊長・日本連盟指導者養成委員長)



歴代隊長から

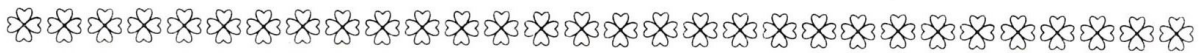
二代・十代 杉原 正

去る六月のある日曜日のこと、武蔵野の面影が残るICU（国際基督教大学）の森の中から、賑やかな笑い声がきこえている。樹々に囲まれた広い芝生に集まっている顔は、みなスカウト仲間たちである。

元カブスカウトの日下部、大島、大内、片岡、元リーダーの友常（里見）、金森、五十野、戸田、そして丁度帰国中であつた安積夫妻を交えた一〇家族、三〇余名が、家族ぐるみの楽しいひとときをもつた。

初対面の家族をお互に紹介し合った後、持ち寄つたお弁当を囲んでの食事、そして子供同志の交流を眺めて、才月の流れと人の輪の広がりを感じた。

昭和二九年に志水さんを隊長として、東京第四団（現港第一団）にカブ隊が発足して二五年、親子二代のカブスカウトをお世話したことをみても、輪の広がりには驚きさえ感じている。二五年の歩みのうちの半分以上を隊長として奉仕させていただき、かつ初期と現時点で隊長をさせていただき、その時代のスカ



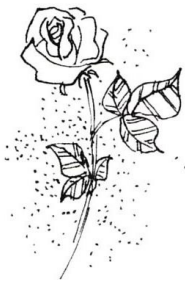
ウト活動を比べてみて、大きな変化に戸惑うことが多い。スカウトのとりまく社会環境、とくに家庭、学校、社会生活といろいろ異つてしまった。そのなかで行なうスカウティングの難しさを感じているこの頃である。

一方、スカウティングを続け、明日を担う青少年を育成するためには、外に大きく眼を向けなければならぬことを、十一月に開催されたフィリピンでの、アジア太平洋地域のセミナーに参加して痛感した。とくに広く他からは学ばず姿勢が、より充実した活動となるのではないだろうか。これからの二五年を目指して頑張りたいものである。

スカウティングを 導くものは 愛

スカウティングを 支えるものは 信頼

スカウティングを 豊かにするものは 感謝



初代（北海道）志水 功

牛舎では、もう夕方の乳しぼりが始まっていた。お母さんがお湯で乳房を拭いてやると、みるみる乳が張ってくる。お父さんが手ぎわ良く次々とミルク（乳をしぼる器械）をつけていくと、透明な管の中をまっ白いミルクが真空作用でどんどんタンクに運ばれるのだ。

「あれッ。この牛、お産が始まってるわ」
「え？まだ予定日まで一週間以上ある筈だぞ」

「だって、ほら……」お母さんの指さす牛の様子をお父さんは一寸首を伸ばして確かめる。

「今夜のうちに生まれそうだな」「この前みたいなの産んでないといいね」「そんなことないさ」と、これはどこの家でもよくある、心配するのはお母さんで、気楽なのが……。

道路の方でスクールバスが止まった音がした。「ミキが帰って来たな。じゃわたし家に入るから」お母さんは晩ごはんの仕度があるので先に牛舎を出た。「ただ今」「どうだった？」「うん、勝ったよ」今日は強豪中央小との練習試合があったのだった。ミキは西小のキャプテンである。小柄ながら強烈なサーブで四年生からレギュラーとなり、一つ年上の姉とともに活躍、「西小の本田姉妹」と名を上げていたが、管内大会ではいつも中央小に負けていたのだ。手早く着がえたミキは元



気にとび出していった。仔牛にミルクをのませるのがミキの仕事である。生まれた順に大きさに応じて調合している間じゅう、四頭の仔牛はメエメエと催促し、バケツを持って行くくと音をたてて飲みほす。飲み終ると今度はミキの手を吸って甘えるのだ。それがたまらなく可愛い。

「ほら、生まれたぞ」お父さんの声にふり向くと、まだぬれてる仔牛が大きな眼を開けて懸命に起き上がるうとしていた。「わーい、わたしの牛が増えた！お母さんに教えて来ようッ」ごきげんなミキは大急ぎでバケツを洗うと、勢いよくかけ出して行った。

志水さんは北海道で獣医さんです。牛の様子がよくわかりましたね。



三代隊長

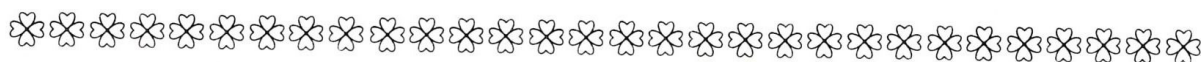
萬石俊夫

港一団のカブスカウトの皆さんコンニチハ
そして、カブ隊が誕生してから丁度二十五周年目を迎えた皆さんに心からオメデトウと言わせていただきます。

一口で二十五年と言っても、皆さんには分かりにくいでしょうが、カブ隊の三期生である私が今では小学校二年の女の子（残念なことに男の子ならカブ隊へ入隊できるのに）と四才になる男の子が居る歳に成る位長い間です。

この二十五年間には、リーダー・団委員等に御奉仕下さった多くの先輩・御父兄の協力があったと思います。特に私達カブ隊に奉仕をさせていただいた、リーダー達を温く見守りそしてリーダーの有り方をお教え下さった、現在隊長をなさっている杉原さんなくては、今のカブ隊は語れないと思います。杉原さん本当にありがとうございます。

さて、私がカブ隊の隊長をしたのは、たった一年という短い間でしたがそれでも沢山の思い出があります。冷汗のかきどうしだった



隊長としての初めての集会・スカウトやリーダー達が騎士やお姫様になった十二周年の式典・平林寺へ行ったバスピク・海山に加え、ゴルフコースに囲まれ自然の多い伊東のキャンプ等色々あって書きつくす事ができません
もっと長い間カブ隊のリーダーをしていたかったというのが今の心境です。

たった一年間という短い間でしたが、カブ隊の隊長を無事に勤めてくれたのもデンマザーの増田さん・鈴木さん・渡辺さん・伊藤さん始め高橋君・須田君・遠藤君達の協力のお蔭と感謝しております。

最後に現在カブ隊に居るスカウトの皆さんも二十年・三十年後にはカブ隊やボーイ等の立派なリーダーになる事でしょう、そして今後三十周年・五十周年と増々カブ隊が発展していくのを心から祈り申し上げます。

♡贈り物を受けても「ありがとう」と言うまでは、
♡それは自分のものではない。

♡ (BIPのことばより)

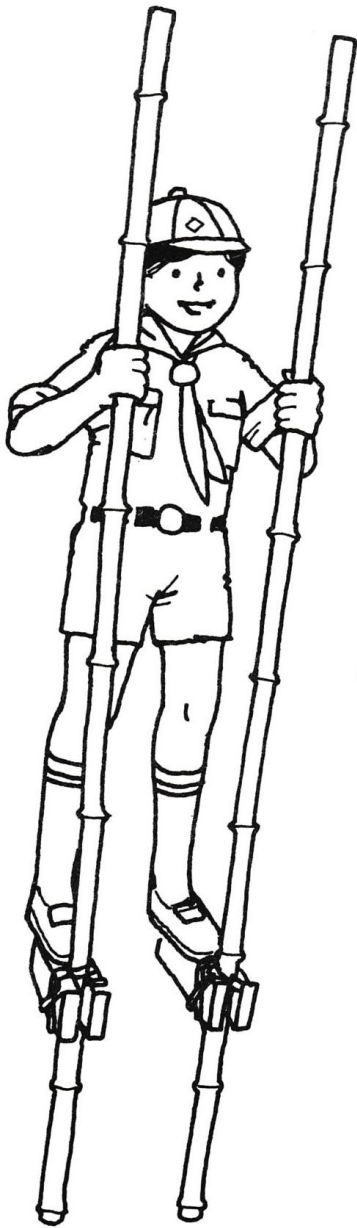
秩父にて

元デนมザー 城所繁子

土の香に 大声あがり

子等ともに 見よこの青空そら

秩父路にきて



すすき野に

ためらわずまろべ ビルかけに
くらす子等も 太陽の子よ

遠い日に

よく似し川にて 遊びけり
父母想う 疎開児我は

五代隊長

友 常 明 子

(旧姓里見)

ある日の集会

デンデンデー、いつも元気!

大輪になろう!

こんなふうには集いがはじまって、ゲームをしたり、追跡ハイクをしたり、縄むすびをしたり、元気一杯とびまわりすぎて教会のガラスを割ったこともありました。

ある集会の前日

明日の集会はお祝いの日、おいなりさんを作ろうと、デンマザーは大張切り。三〇〇個分の油あげを煮て、お米をたいて、つめ終ったら夜があげていました。

あるバザーの日

ガールスカウトの人達とちがって、とても売れるほどの制作品はできない男の子。それでもやっと思いついたのが、靴みがき。思い思いの道具をもつて、エー靴みがき、靴みがきですヨ。感激して足をだして下さるのは、もつぱらカブの御父兄でしたっけ。



ある忘年会の日

その昔、リーダー会で、何ともえらそうでけむたかったカブの隊長の杉原さん、ボーイの隊長の飯田さん、シニアの隊長の今田さん、その他たくさんの先輩リーダーと気楽に話せるようになったと思ったら、あとに続く若いリーダーがいったばいで、それだけ私も年をとったようですねエ。

以前、教会の塔の上にボーイの集会場があり、細いラセン階段をのぼっていくと、それは秘密の部屋のように特別な場所でした。いつからか危険で使えなくなりましたが、霊南坂教会自体、近い将来あのレンガ作りの建物でなくなる日がやってくるでしょう。でも、どんなになっても、この二十五年のあゆみが次から次へと伝えられ、みんなの心に残ってゆたかに成長していつてくれると思っっています。



八代隊長

糸井 国雄

全々経験のない私が急にカブの隊長をすることになり本当に驚きました。なにしろ「キオツケ」も「ヤスメ」さえやったことがなかったのです。ネツカチーフのつけ方も下手でした。私も大部戸惑いましたが、私の周りの人々は相当困ったことでしょう。

私が理想とするのは、自由でそおぞお（創造・想像）的な人間です。ですから、日の丸も、制服も嫌いでした。自分の好きな服装をして、自分の信じる様に生きることを大切に育てたいと願っていました。

夏期キャンプの思い出です。下見の時に、この素晴らしい広場で思い切り自由に遊ばせてあげたらどんなにみんな喜ぶだろう、と考えていました。ところが実際のキャンプの時に、三十分もしないうちに「隊長つまらないや」という声が出はじめました。そこで「それなら、弓をつくって、誰のが一番よく飛ぶか競争しようか」と提案しましたら、みんな夢中になりました。子供達は自分達だけでは遊びをそおぞお（創造・想像）できなかつた



のです。この時程日頃の集会の大切さを痛感したことはありませんでした。
とにかく、おかしな隊長でしたが、副長をはじめ、リーダー、デンマザー達が、隊長の考えていることを一生懸命実現しようと努力して下さったことをよく覚えています。
糸井さんは岩国みぐみ幼稚園におられます。

九代隊長

池 沢 一 之

港一団のカブ隊のみなさん二十五周年お目出度うございます。

楽しい夏の舎営の一コマです

丹波山村にて

一 杉田副長の名演技指導

営火を囲んで

二 丹波川の河原でニジマスのつかみどり

三 丹波川上流のハイキング集結地点

ここでは砂金のような砂が一面あって
みんなお金持になったようなさざっかくなり
なりました。

本当に楽しい思い出です。これも御父母のご協力とリーダーのチーム・ワークが一致したからだと思います。

隊長の私は未熟でいつも冷汗をかいていました。

無事舎営を終了してほっと致しました。残るのは感謝と楽しきでした。

では港一団のカブ隊のさらに発展を祈ります。

ウオーウオーウオー

お父さまから隊長になられた方、とても勉強をしがんばっておられました、団委員、地区役員と奉仕されました。



カブ隊のころの思い出

ボーイ隊副長補 安 西 武 彦

思い出を書け、と言われても、あまりにもたくさん、ありすぎて書くことができない。夏のキャンプ、合同キャンプファイア、etc.だから、ここでは思い出よりは、私が学んだ事について書いてみたい。

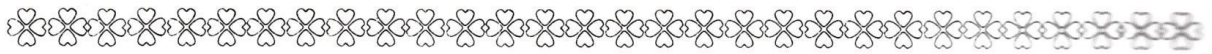
まず第一に、集団活動訓練が出きた事。特に児童期においてのそれは実に変な効果をもたらしてくれたことと思う。次には、友人関係である。学校以外に友人を持つことで、私の中の社会が相当広がったと思う。以上二点が私の得た事の中で一番重要な点と思う。カブスカウト……決して自分から進んで入隊した訳ではないのに、上進時にはカブスカウトを卒業する事が残念でしかたがなかった。数々の思い出がこうしている間にも脳裏をよぎる。それらの思い出にひたっているだけでなく、それを踏み台にして進んでいきたいと思う。

デン
マ
ザ
ー
の
ペ
ー
ジ

元デンマザー 長 井 善 江
(旧 神沢)

25周年おめでとうございます。

スカウティングに参加させて頂きました時の思い出は沢山あり、今やヒゲを生じた高校生や中学生の元カブたちに、キャンプファイヤーで会々と、懐しいやら、何だかとても頼しいやらの思いに嬉しくなります。自分はあの頃よりあまり成長してないのに、子どもたちだけがぐんと大人になった気がします。思えば、スカウトにとっては、私は未熟で、足りない所だらけのリーダー(D・M)だったろうと思えますが、私にとって、カブでの「こどもとの触れ合いの中で学ぶ事の多かった」貴重な経験は、大げさに言えば、青春の一言であり、銀行員から幼児教育へと方向を変えさせた程の意味を持つものでした。2年半の僅かな期間でしたが、大ぜいのスカウトやリーダーと共に活動できた事を幸わせに思うと同時に、皆様にとっても感謝しています。これからも、カブ隊の御発展を心よりお祈りしております。



「思い出」
元デンマザー 大 室 洋 子
(旧 伊藤)

25周年おめでとうございます。なつかしい

4団を思い出しながらペンをとっています。今でも私の生活のそこそこにあの頃の事が、たくさんしみ込んでいます。それは講習会から始まったリーダーとしての訓練です。その場に応じて絵にとりくんだ絵画製作では画き慣れない為に大はじをかいたり…。土曜日の集会でのお料理の指導では調味料不足で味がうすいのができ上り等とヒヤ汗のかき通しました。そして夏のキャンプ時の朝の点検ではカブと共にドキドキしていたことが忘れられません。しかし、すべての事に注意深く、又、まわりのことを常に配慮しながらの生活態度の大切さは、今でもとても役立っています。今後共、神さまのお守りのうちに団が大きくなる成長を祈りますことを心より祈っております。



元デンマザー 渡辺 邦子

(旧姓 間宮)

25周年おめでとう。リーダーをさせていた
 だいた4年間の思い出はたくさんありますが
 それ以上に良かった事は、何事も自分でする
 という習慣が身についたことです。今私は古
 い友人や家族と離れて知らない土地で生活し
 ています。スカウティングで学んだ事はど
 こでも役立ちます。時には寂しい思いもしま
 すがそんな時にはリーダーをしていた時の楽
 しい思い出で自分を励まします。私達の団の
 一番良いところは、神様の前ではリーダーも
 スカウトも同じだと考えていることです。だ
 から自分は小さいから何もできないと思わな
 いでください。神様は皆さん一人一人を大切
 に考えていらっしやいます。私がリーダーを
 やっていて苦しかった事もあります。その
 ために今素晴らしいだんなさまと赤ちゃんに
 恵まれていることを思うと、これは神様が私
 にくださった贈り物だと思えます。私は皆さ
 んの努力が決してむだに終わることはない
 信じています。弥栄。

かわいらしい赤ちゃんが大きくなり、今
 度はお母さまデンマザーとしての奉仕を
 願っています。

思うままに

元デンマザー 葛西 英子

ある日の集会。「宇宙旅行のロケットを作
 ろう。」「8人全員が乗れる大きいのがいい
 よ。」「じゃあ作るのに必要な物考えて。」
 「僕椅子持って来る。」「エッ?。」宇宙の
 想像図も描きます。大きな紙に賑やかな物語
 り入りで描いているが、想像力豊かなのは驚
 かされず。「あと二、三匹宇宙人を描こう」
 「エーッ、宇宙人は人間ではないの?。」「
 あれッ、人間の?。」時には、こんな珍言
 に大笑し、楽しく作業が進む。ロケット作り
 にしろ、他の作業にしろ、組長を中心に、小
 さいうさぎスカウトも、自分の持ち場を一生
 懸命こなします。たとえ結果が貧しくとも、
 組が一体となって協力し、生き生きと意欲的
 に取り組むこの過程がより大切と思えます。
 時には組の勝利を狙って闘志むき出しに走る
 スカウト達と過す集会は本当に楽しいもので
 した。願わくばこのスカウト達が、神と隣人
 への愛の務めを忘れずに、喜びを持って、
 スカウティングに参加し歩み続けんことを。

男性的な考えのもち主、ひきつづいて団
 委員会に奉仕されています。

東京四団のカブスカウト生誕25周年、本当におめでとうございます。25年と一口に申しますが振り返れば、あつと云う間のようでもあり又、長い長い年月であったとも云えますでしょう。カブスカウトが日本に生まれて最初に隊として認められた幾つかの団のその一ツである東京四団に我が子を入れていたゞきそして25年の長い歴史の中のほんのほんの一時期の一年間をデンマザーとして参加させていたゞきました事は、私にとりまして又、子供にとりまして忘れる事の出来ない思い出の一頁となりました。つい昨日のことのように思い出されますが、あれはもう一年半も前の事になってしまったのですね。毎週々々土曜日の集会がとても楽しみでした。初めの中は本当に無我夢中で、今日は何をして過したのかしら？と思ひ出せない位の日もございました。でもだんだん慣れて行きます中に「集会へ来るの嫌いだったけど今は絶対休みたくなひ。」とか「カブブック全然興味なかったけど矢章もらえるのすごく楽しみになつた」と云う子供達の声にさゝえられ、少しでも役に立っているのかと云うはげみで一年間過して来たような気が致します。今も、その頃の



子供達の顔を見ると本当になつかしく可愛いく思われ、ボーイに行つた子供達がデンチーフ等になって活躍している話を聞きますとても嬉しく思います。又、私にとつても我が子を客観的に見る事が出来、井の中の蛙の知識で育てゝいた事がはづかしくさえ感じられました。

子供と云うのは大勢の中と一人々々の時とではずい分違うものです。個々につさ合つて見るとどの子どもどの子ども本当に可愛いものです。デンマザーをしてはじめて知つた色々な経験は何にも変え難い良い勉強になりました。

これからのスカウト一人々々も一度スカウトになつた人は一生スカウトであると云う事を忘れず大人になつてからも何時も何処でもスカウトだからこそと思われる生活を送つて欲しいと思ひます。

長い歴史に輝く東京第四団（港一団）の増々の御発展を祈り筆を置きます。

お若い頃ガールスカウトのリーダーをなさつていた制服のよくにあうデンマザーでした

元デンマザー 藤井 朋子

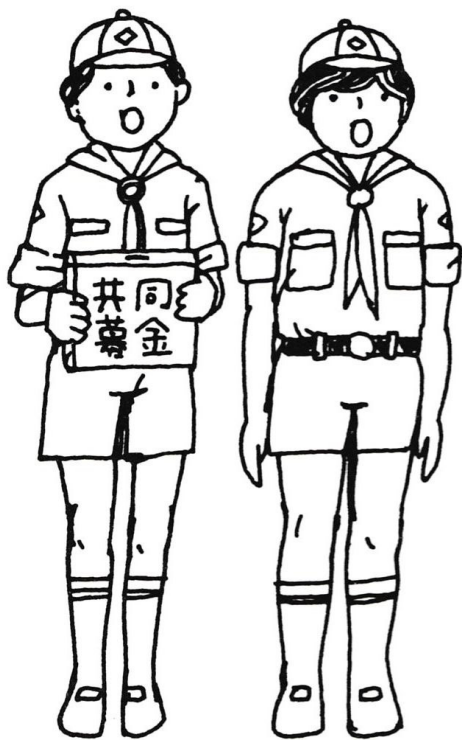
カブスカウトの皆さん、25周年、おめでと
うございます。

デンマザーとして、一緒に、夢中で過した
あの頃を、懐しく思い出しています。

デンチーフが、いなかっただせいもあって、む
しろスカウトとして、(しいて言えば姉上と
いうところかな。)もみくちやになっての一
年間でした。このもみくちやの一年間が、ス
カウト精神の髄を、教えてくれました。

その理由は、ベーデンパウエルから始まっ
て、隊長、リーダー、お父さん、お母さん達
の愛の業によって、スカウティングが行われ
ているからです。愛の業の中で、育かれた
スカウトは、その喜びを、愛の業で返して行
かすには、いられなくなるのです。

ベーデンパウエルが、世界中の青少年のた
めに、と、スカウティングをひろめられた様
に、私達も、26周年に向けて、大きく、世界
に、眼をひろげてみましょう。戦争をしてい
る国、早魃で食物が穫れない国、毎日餌え、
死する人達、私達は、豊さの中であって、直



スカウトと教会との橋の様な方です。い
つも心がけて下さっています。

接目に見えない苦しみをかゝえている、国々
や、人達、又その国に住むスカウト達のため
にも、愛の業を、育くみ、ひろげてゆきまし
ょうね。

終

カブの思い出

元デンマザー 斉 藤 芳 子

私の思い出は、赤いデンマザー手帳の中に大切にしまっておりあります。沢山ありますが一番心に残るのは、夏のキャンプで、全員揃って完修をいただいたことになりました。年令も学校も違うスカウトが週一度の集会なので、まず心一つにすることを願って、「夏のキャンプに揃って完修をいたごう。青い空の下で、きつと、きもちいよ」と提案しました。皆、コツコツよくガンバツてくれました。皆、実現しました。熊一人、鹿二人、うさぎ三人ほこらしげにできていました。スカウト活動のたてのつながりの中でそれぞれ自分の役目を心得て他人を認めることが出来るようになって、六組は力の揃った組と云われ、仕事が早いとほめられるようになりました。おことわりしきれなくてお受けしたデンマザーの仕事でしたが、一年間務めさせていたゞいたお陰でいろいろなことを学ぶことが出来ました。皆様に御指導、御協力いたゞきまして、ありがとうございます。

スカウトの役務分担をとても上手にした方です

「能力」

元デンマザー 八 木 千恵子
(旧 佐久間)

私には中三と小六の男の子と小四の女の子が恵まれています。それでどうしても教育のことを考えることが多くなります。この長男が幼稚園のころから伸芽会など渡り歩き、水泳を習わせてみたり、スキートのキャンプにゆかせたり、一通りの「教育ママ」ぶりを発揮したものです。勿論小三になってカブにも入れました。しかし、どれもいやがりリーダーのご努力に拘らず長続きしませんでした。今考えると「いじくりすぎ」なのです。「お前のは「教育委託業」だね」とこれはパパの批判。能力のある子は、ほっておいてもその能力を出すでしょうし注意深い親なら、良いチャンスを取らえて、それを伸ばすでしょうが、私にはその子の傾向はわかってませんが能力がわかりません。が、スカウト生活はご存知の様にいろいろな分野を経験させますので何が好きか、得意か見はけやすく、その点良いなと思います。カブに入られた皆さん、どうかローパスまで続かせてこの「能力」を見わけ、伸して下さい。勉強の能力だけが能力ではありません。

キャンプの思い出

元デンマザー 加藤 美江(母)

キャンプのプログラムの一つで絵地図があります。組ごとに外に出て宿舍のまわりを絵で書くのです。画板と鉛筆を用意し、各々の分担をきめて出かけた。外は自然に恵れとんぼやちようちよう、ばったなどが沢山いる。スカウト達は大喜びで早いスカウトはもうとんぼをつかまえている。他のスカウトも人先指で輪をかきながら一生懸命とんぼを追いかけ真剣そのものです。課題にもどるよう注意しても夢中で、とんぼと楽しんでる姿には負け、時間まで遊ばせてしまった。絵地図は白紙で部屋の壁に張りリーダーの採点を受ける。とっても恥かしかった。賞を取った組が立派に見えた。手をかしその場を適当に過ぐす事も出来た。しかし身勝手な行動にはそれなりの代償は受けるべきだと思ひ一緒に苦しんだ。失敗をし、恥しい思ひをして大きく成長して行くのならば、これも又良き経験の一つだと願う。

父親の様に工作を指導してた方

元デンマザー 大和 たか子

デンマザーとして子供たちと勉強したり遊んだりした一年間は私にとって貴重な体験と感謝しています。有栖川宮公園への追跡ハイク流山のピクニック大昔の野川のテーマで土器作り戦国の武将の旗指物馬印かぶと等子供たち一人一人の個性が出て素晴らしい作品が出来ました。やはり一番の思い出は修善寺での二泊三日のキャンプでした。だるま山への追跡ハイクやキャンプファイヤーの素晴らしかった事、組長を中心に皆で協力してはじめてプログラムをこなす事が出来るのですがいたずら盛りの子供たちの事なかなか大変でした。又円卓の騎士の本を読んだり水上消防署見学クリスマスでは聖劇がりっぱに出来ました。隊長をはじめリーダーご父母の皆様のお力添えがあったからこそ無事過せたのです。カブスカウト25周年にあたりご奉仕下さいました方々に感謝すると共にこれからの発展をお祈りいたします。

とてもやさしいデンマザー、大和君が協力的だったのが目にうかびます

世界の仲間達

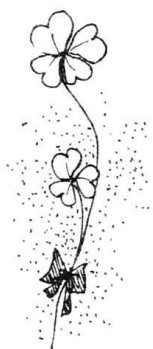
地球はひとつだこの地球に一五三の国がある
キミはいくつの国の名前をいえるか、食べた
いものが食べられる豊かな国、食べものが不
足していて、おなかをすかしたまま死んでい
く子どもたちもいる貧しい国、いままで知ら
なかった国を知り、その人びとの生活や考
えを理解しよう、地球はひとつだ、世界には
日本を知らない子どもたちがたくさんいます
ところでキミたちは外国のことをどのくらい
知っていますか？アフリカといえばどこでも
あついと思うでしょう、でも雪の降る山もあ
るのです。日本の私たちは、食べるものもあ
ります。病気になるればお医者さんもあるし大
きな病院もあります。小学校や中学校へはだ
れもが行けます。高校や大学へも行けます。
エンピツやノートもあります。私たちはこう
いう豊かな国に生まれ住んでいます。でも地
球上のすべての国の人びとが豊かにくらすこ
とはできないのでしょうか？世界のどこかで
学校へ行けない子どもがいるとしたら、人び
とが飢えや病気で苦しんでいるとしたら本当
に豊かで平和な世界はできません。



わたしの家族 プンベーン（12才オス）
「わたしのきょうだいは7人です。でもほん
とうは12人いました。あとの5人は生まれて
すぐに死んでしまいました。わたしが8才の
ときに、お父さんが死にました。盲腸でした。
村にはお医者さんがいないので百キロはなれ
た町へバスにのっていったのですが手おくれ
でした大きくなったらわたしはお医者さん
になって村の人びとのためになりたいとおも
います。」国がちがえばことばや習慣もちが
います。食べるものも着ているものも住んで
いる家もそれぞれがいます。考え方だっ
ちがうかもしれませぬ。おたがいがよく理解し
あっているともいえませぬ。だからまずおた
がいの間にちがいのあることがわかる、これ
が大切なことです。仲良くするための第一歩
です。

青年海外協力隊事務局発行

（むすびあう世界より）



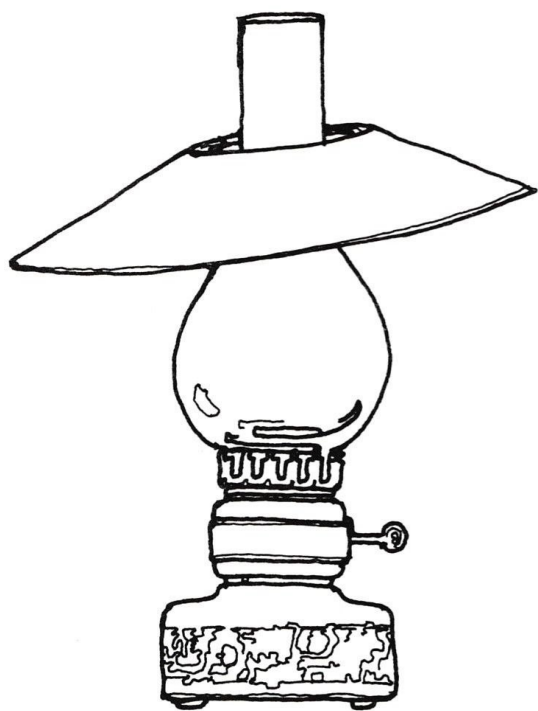
親子どんぶり

スカウトと御父兄のページ

カブに対して、感じたこと、思うこと、何でも書いていただくページです。

いつも、父の会、母の会でカブ達はお世話になっています。

これからも、隊のためにお力をおかし下さい。



カブ現況報告

みんな元気に土曜の午後集会を待っている、港一団カブスカウト隊です。

僕たちは、組長、次長を中心に、リーダーのお手伝い、組の会計、その他いろいろな役をもって、協力しあっている、三十六名です。

と中、立川四団に転団した工藤君、戸塚にこした野本君、がぬけましたが、だれもやめずに、あまりやすまずに、今年から来たデンチーフ、お母さまデンマザーに協力して良い組を作ろうとはりきっています。

隊員のあこがれの人杉原隊長、そこにいます。ここでこわい浦野副長、スカウトけいけんをいましてはりきる、高橋(徹)、高橋(恒)、笠原副長、写真家の小宮副長、カブ達が大好きな大塚副長補、などリーダーは七名です。

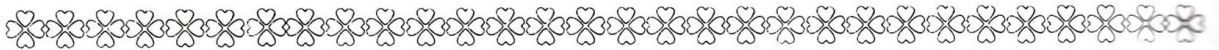
杉のようにどこまでもまっすぐに、太陽のように明るさと強さを持ち続けて行きたいと思っています。

〜くみ〜

デンマザー 杉原孝江

一昨年の秋、長男を長年の夢であった靈南坂教会のカブ隊に入隊させ度く、集会を見学させていただいた時は、私が再び制服に身を包んで、リーダーのお手伝をさせていたかどうかになるとは、夢にも思いませんでした。

女子校に学び、家庭では父以外は飼犬まで女という中に育った私が、結婚すると息子二人に飼猫まで雄になり、そして又、わんぱく盛りの男の子のみの集団で奉仕するようになり、とまどう事の多い半年でした。夏のキャンプを終え、一人一人の性格が少しずつ判りかけてきた今日この頃です。一組はユニークで元気な子供が多く、大変でもありますが、私には気の合う楽しい子供達です。「さすがあー。デンマザー。」「苦勞するよね、デンマザー。」の子供達の声に、おだてられたり、慰められ、どうやらここまでやってこられた次第です。三十五周年に、リーダーとして活躍している事を楽しみに待っています。



デンチーフになって

ボーイ隊 佐藤明喜

ほくが、デンチーフになった時の第一印象は、まず、すごく、さわがしいということと元気がいいということだった。ほくが、カブ隊の時は、すごく静かで、リーダーに、「もっと大きな声を出せ。」とどなられたことが多いいのではないかと思ひびっくりした。

特に、ほくが、受けもった組、一組は、さわがしいことと元気がいいことを何倍かした組ではないかと思った。この組はチームワークがあつて、ほくも、デンチーフになつてすぐやりがいがあつた。これからも、みんなで力をあわせて、やっていきたいと思う。

- ♡ 真のスカウトはいつもすべての人々の中で
- ♡ 最も忍耐強く、一度で成功しなくても気にせず最後に「そこに至る」まで断固として努力するーそれが大きな事でも小さな事でも…
- ♡ (BIPのことばより)

カブスカウトに入っの思い出

くま 渡 辺 健 三

ぼくは、カブスカウトに入っのが、三年の時です。それから、キャンプで、高尾、八ヶ岳、しゅぜん寺、そして、今年の上田です。中でも、上田が一番心に残っていました。そのキャンプは、一日目、学校の用事で、一日おくれで行きました。そして、ついた日は食事も、よくたべられ、よくねむれたけれどその次の日は、朝は、調子がよかつたんだけど、昼から、山登りへ行っった時、ちよう上についたら、急に、だるくなって、みんなより先に、山から、おりました。そして、ねむって、休んでいたら、だんだん調子が、よくなり、夕食も全部、食べられて、キャンプファイヤーにも参加でき、とても、よかつたです。キャンプでは、この他にも、楽しかつた、キャンプも、ありましたが、この、キャンプが一番思い出に残りました。



三度のキャンプ生活

元デンマザー 渡 辺 順 子(母)

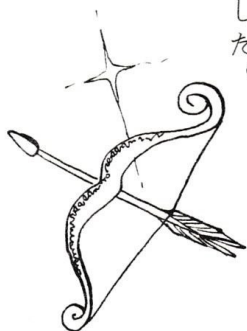
私は息子が、カブスカウトに入っから、三年間の三度あつた夏のキャンプに、三回とも何んらかの形で、参加した。振り返ってみると一度二度三度目と私自身のスカウトを見る目の変つてきた事に気がつく。最初の八ヶ岳へのキャンプは我が子が親元から離れての、始めての三泊もの生活をどのように過すのだろうかと云う、自分の子とカブスカウトと云う見かたで、気軽に友人と旅行へ来ている様な気分で楽しませていたのだ。二度目の修善寺へのキャンプの時は私はデンマザーと云う役目での参加で八人の子供達と食住を共にし自分の組しか目に入らぬ様な状態で夢中で、過したと云う思い出がある。しかしデンマザーをやっていると云う実感とこのキャンプを境に子供達との間に親密感がわいた事は寝不足と疲れを吹飛ばすスバラしいものであつた。そして今年三度目の信州上田へのキャンプは会計という役目でスカウトのおやつそして、救急等側面からのお手使いで参加した。そこで始めて私はカブスカウトを全体的に見渡している自分に気がついた。そして自然とスカウトだけを相手に夢中で過せるこのキャンプ生活に多く参加出来た事を大変嬉しく思っている。

カブスカウトに入っの思い出

くま 渡 辺 健 三

ぼくは、カブスカウトに入ったのが、三年の時です。それから、キャンプで、高尾、八ヶ岳、しゅぜん寺、そして、今年の上田です。中でも、上田が一番心に残っていました。

そのキャンプは、一日目、学校の用事で、一日おくれで行きました。そして、ついた日は食事も、よくたべられ、よくねむれたけれどその次の日は、朝は、調子がよかつたんだけど、昼から、山登りへ行つた時、ちよう上についたら、急に、だるくなつて、みんなより先に、山から、おりました。そして、ねむつて、休んでいたら、だんだん調子が、よくなり、夕食も全部、食べられて、キャンプファイヤーにも参加でき、とても、よかつたです。キャンプでは、この他にも、楽しかつた、キャンプも、ありましたが、この、キャンプが一番思い出に残りました。



三度のキャンプ生活

元デンマザー 渡 辺 順 子 (母)

私は息子が、カブスカウトに入っから、三年間の三度あつた夏のキャンプに、三回とも何んらかの形で、参加した。振返つてみると一度二度三度目と私自身のスカウトを見る目の変つてきた事に気がつく。最初の八ヶ岳へのキャンプは我が子が親元から離れての、始めての三泊もの生活をどのように過すのだろうかと云う、自分の子とカブスカウトと云う見かたで、気軽に友人と旅行へ来ている様な気分が楽しませていた。二度目の修善寺へのキャンプの時は私はデンマザーと云う役目での参加で八人の子供達と食住を共にし自分の組しか目に入らぬ様な状態で夢中で、過したと云う思い出がある。しかしデンマザーをやっていると云う実感とこのキャンプを境に子供達との間に親密感がわいた事は寝不足と疲れを吹飛ばすスバラしいものであつた。そして今年三度目の信州上田へのキャンプは会計という役目でスカウトのおやつそして、救急等側面からのお手使いで参加した。そこで始めて私はカブスカウトを全体的に見渡している自分に気がついた。そして自然とスカウトだけを相手に夢中で過せるこのキャンプ生活に多く参加出来た事を大変嬉しく思っている。

カブスカウトに入団して

くま 阿部 浩 昭

ぼくが、カブスカウトに、入ったわけは、母に、進められ入ってみようと思ったからです。始めは、どんな事をする所かわかりませんでした。最初は、何ヶ月かたつうちに、仲間と一緒に学校以外の勉強や、いろいろな事に、ほう仕する事がわかりました。一年間で、一番楽しい事は、夏休みのキャンプです。仲間と何日か一緒に生活をして、いろいろな事を、経験しました。もうぼくは、くまスカウトで制服も、よれよれに、なってきましたが胸の矢章は、ぼくの勉強した印です。一つでも、多くの矢章がつくように、あと、四ヶ月しかないカブスカウトで一生存ん命がんなばってみたいと思います。ぼくが、大きくなるまで、その制服を大切にしておきたいと思っています。

♡バック ↓ 隊のことをいいます

浩昭をカブスカウトに入団させて

母 阿部 肇 子

カブに入団する前は、何事につけても親とべったりで、自分の事も満足に出来ない始末で学校でも特定の仲間としか遊べずこのままでは視野の狭い子供になってしまうのではないかと思っていた矢先、近所のボーイスカウトに奉仕されているお母様からお話を聞き、ぜひ家の子供も入団させて規律のある集団生活の中でどれだけ仲間と一緒に生活が出来るか確かめてみようと思ったからです。この三年間一日の欠席もなく本人は土曜日がまちどろしいのでしよう、真っ黒になって満足して帰ってくる顔を見てとても楽しく有意義に過している様子が一目で解ります。独立心のある子供・思いやりのある子供になって欲しいと思っております。少し色のさめてきた紺の制服、胸に付けている矢章などを見ている内にとってもたのもしく見えてくる今日この頃です。

♡カビン ↓ カブスカウト活動のこと

カブスカウト隊に入って約1年7ヶ月たち
ました。

その中には、いろいろな思い出があるでし
よう。でもわすれられないのは、入隊してす
ぐいろいろな友達となかよくなれたことです。
中には、よくぼくとけんかをしたりする人も
いました。

でも4組のときは、一番じちょうがぼくに
やさしくしてくれました。

たまに学校からかえってくるのがおくれ
しゆうかいにおくれます。

これからもカブスカウト隊をつづけたいです。

- ♡ 人生で何か小さい事から始めて、それを成功すること
- ♡ に絶望的になったら、かしのように大きくて強い木でも
- ♡ 最初は土の上に、ころがっている小さなドングリであっ
- ♡ たということを書いて見よ。

(BIPのことばより)



私は旧四団OBです、そのOBなる権利で
色々云わせて頂きます。先づ、カブ隊は大人
しくなった、と云うことです。我々が現役の
頃には、もっともっとワンパク坊主がいまし
た。そして、仲間内のことは、仲間内で処理
してましたよ、そりゃ、多少雑な所が目
付くかもしれないが、それはそれで良い味
となっていた筈です。現在のスカウト達を見
ていると、「お利口さん」がとっても多いの
です。悪い事だとは思いませんが、何となく
寂しいのです。もっともっと子供らしさを出
して、のびのびと行動して欲しいのです。確
かにリーダーは大変だと思います。でも、小
さい大人を作るよりは、面白い子供を作るべ
きだと思えます。スカウト達が自然を親しん
でいる所はとっても素晴らしいのです、それ
が日常に入ってきてても良いと思えますが、で
も礼節を忘れないように……。



クレープ作り

うさぎ 北村政彦

ぼくはクレープをはじめてつくるので、だ
いじょうぶかなと思つてとても心配でした。
でも、作つてみるとかんたんでした。うすく
かわをやくのが一番むずかしかつたのでやき
おわると「やつとできた。」というかんじで
した。クレープのかわをたくさんつんである
のであんなによくできたな、とおもいました。
でも自分でつくつたのは、何まいぐらいかな
と、おもいます。かんづめやチーズもはさむ
のかと思つていたらほんとはさんだのでチ
ーズもはさんでいいのだなと思ひました。
クレープのなかにさくらんぼもはさむと、た
ねをだすのがたいへんだなと思ひました。
クレープの中には、どうして「なし」が入て
ないのかなと思ひます。なしが入てればもつ
と、おいしくなるんじゃないかなとおもいま
す。ぼくは、いろんなところにいったりする
のでカブに入つてよかつたなと思ひます。



母 北村道子

女のきょうだいばかりで育つた私が最初に
産んだ子供はやっぱり女の子でした。ですか
ら二番目に産んだ子供が男の子だった時は嬉
しくて信じられず始めの頃は何かもめずら
しいことばかりでした。そんな風でしたから、
こういう子に、ああいう子にと期待など思い
もありませんでした。そればかりか、男の子
とはこういうものかとただ感心するばかりで
した。そして、彼の心と体の成長は毎日いつ
しよに暮している私でさえ驚く程の早さで進
んでいます。今に、私達にぶつかつてきた時
に、しっかりとぶつかりがいのある親になれ
るか心配です。嬉しくも悲しいことですが、
一人前になつて、私達の元から飛立つ日まで
たくさんものを見て、経験して、ちゃんと
自分で判断のできる様になつてほしい。もし
てその判断が正しくても、間違つていても立
派に責任のとれる人間になつてほしいと思ひ
ばかりです。その経験の一つとして、今まで
同年の友達ばかりでしたので、お兄さん達の
中に入つて、幼いなりに何かを学びとつてく
れたらと思ひます。

二くみ

最近の活動

デンマデー 大川 節子

二組は始め七人でスタートしたが途中体調を崩し休隊をしたため、くま三人、しか一人、うさぎ二人で活動をしている。人数が少い為何事も敏速に行動が出来る。夏のキャンプは、学校の行事と重なって初日は二人であった。自分の子供が臨海学校で参加出来なかつたので、息子のことに気をとられずに皆に接する事が出来た。キャンプが済んでから「世界のスカウトを知ろう」ということからアジア・太平洋地方を選んだ。その中で、民族料理は母の会の賛成のもとにのりまきをつくった。普段食べることは有っても、自分でお米をといだり、すだれでまくこともないだろう、事実私共がお米をとぐより丁寧に楽しんでとき、のりをまくときも、あふれんばかりにご飯を入れて入れている。これからは、家で僕がおすしを作ってあげようかというスカウトも出て来ると思う。また建造物を中国の六和塔に決め、ダンボールで六角形をカッターで十二枚切りとる、水を得た魚のようにはりきっている。

デンチーフになって

デンチーフ 小坂 秀一

杉原隊長から、カブ隊2組のデンチーフに任命された。教会の幼稚園の庭で各組順に、肩から紺色と金色のデンチーフ綬をつけてもらった時は、とてもうれしかった。そして班長の加藤君と握手をした時は、カブ隊の時から、ぼくは、ズーっとズーっと2組だったなと、カブ隊の時のことを思いだした。

でも今までお世話になったのだから、今度は出来るだけ皆のめんどろを見なければ、と思った。ぼくもカブ隊の道志村のキャンプの時デンチーフに色々教わったり助けて貰ったことを思い出す。お兄さんがついているといいもんだなと思った。それなのに今年のキャンプ、お兄さん役をしなければならぬのに用事があり参加出来なかつたことが大変ざんねんだった。

♡DM↓デンマザー



組長になって

くま 加藤 祐 二

組長は、たいへんな係だと思っています。三年生に、気をつかわなければいけないし、自由行動をしないか、それがしんばいでしょうがないのです。組長で、ふべんなことは、ふざけられないしゲームのときでもバツゲームが多いし、でも組長でも、いいことがあります。三、四年生をこきつかえるし、はんこうしても組長だとゆえばいいのです。でも組長はこんなもんじゃなと思うことがあります。どんなことをすればよいんだろう、組をまとめる、どこかあつまる所でふざけなにかよく注意する。組の整理をきちんとする。三、四年にしないことを、おしえたりすることが組長のやくわりじゃないかと思いません。これから四ヶ月間、組や隊でたのしい思い出をつくっていききたいと思います。



雑 感

加藤 美 江 (母)

二月頃の寒い日の組集会でしたかしら、寒さを防ぐためしっぽ取りゲームが始まりました。スカーフがしっぽになり、お互いのしっぽを取り合うゲームなのに笛が鳴っても全々動きがない、組ごとにまとまって組の動きをじつと見つめ合い少しづつ動きはじめる。小さいスカウトがしっぽを取られそうになると、大きいスカウトが一生懸命助け、かばってやる、「自分のしっぽを取られても……！」そんな姿がとっても滑稽に思え、ゲームとしては不自然なのですが、カブ隊の思いやりと助け合いの精神が自然に身に付き組意識として現われたのだと、嬉しく思いました。ボーイ隊に上進するスカウト達も不安と期待の中で、お別れが淋しいのか、「みんなボーイにこいよ僕達がめんどう見てやるから……」と先輩ぶる。困ませた諸君達もこの頃は身心共に成長し、頼もしさを感じた。何時までもやさしい心で。

カブスカウトに入って

くま 藤 元 孝 志

カブスカウトに入って、本当に良かったと思う。最初は自分から入ろうとしたのではなく、母に進められて入った。カブスカウトは、仲間たちと遊んだり、組集会でいろいろな物を作ったり、キャンプに行ったりする。

今ほくは次長です。うさぎスカウトの時は、次長になるなんて想像もつかなかった。

でも次長になったかぎりは二組を、組長といっしょに、いい組にしたいと思います。

ほくはキャンプの中で一番印象に残った物は、「ほくらは忍者だ」のテーマの時です。

なぜかという、その時は、ほくを合わせて二人しか二組が来てなかった。で組長の代理を、やらなければいけないので緊張してしまっただけです。でも、ほくは、その一日だけ代理をはたせました。ほくは、一日だけでも代理を努められたのでうれしかった。ほくにあってこのキャンプは、もう忘れられない事でしょう。

♡DD↓デンダット

カブスカウトへの期待

二組 藤 元 真 良

子供が生まれた時は、体重が4kgもありまことに健康優良児で、親として誇らしい気持ちで将来への夢を描いたものである。私はスポーツが好きで高校時代迄野球選手として球技活動をしていたので、この子供にスポーツを教え込み親子でスポーツする日を楽しみにしていた。しかし親の想像とはまったく逆に子供は、室内でプラモデル等の工作物をいじることを好みスポーツや野外活動にはあまり興味を示さなかった。これでは社会人になってから孤独な人間になるのではないかと心配し、そこでカブスカウトに入れて友達との協調性、屋外活動へと本人の気持を変えさせられることを期待した。しかし多忙故に子供の成長を認識する機会が少く、又カブスカウト活動について語れるのもキャンプの時位で、申し分なく思っている。しかし寝起を共にし、又、客観的に見れるのにキャンプは有意義であった。この時である、三年の清里のキャンプでは、まだ幼なすぎたよりにならなかったが、五年生の上田のキャンプでは親に注意するほど活発でかつ積極的になって来ておりあきらかに成長してたくましくなって来たことをうれしく思っている……。

カブキャンプの思い出

くま 千 島 慎一郎

入隊時の時は、友達もいなく初めてのキャンプをさかえに、しだいに友達もでき日を重ねるごとに、みんなと仲よくなり、いっそう楽しくなってきた。

初めてのキャンプは、どういう事か分らず、心配だった。

夜空に燃えるキャンプファイヤーは、とてもきれいで心に残っている。

二回目のキャンプは、自分たちで作った鎧を身につけ、旗を立てて山登りをし、頂上でおかしを食べながら駿河湾のきれいな景色を、ながめたりパノラマスケッチをした。

そして今年、カブ生活最後のキャンプであったが、学校の都合で1日おかれて参加した。今回のテーマは「忍者」なので、やりやゆみを作りキャンプファイヤーのスタンツに使った。ちよっぴり戦国の世に行った様な気がした。

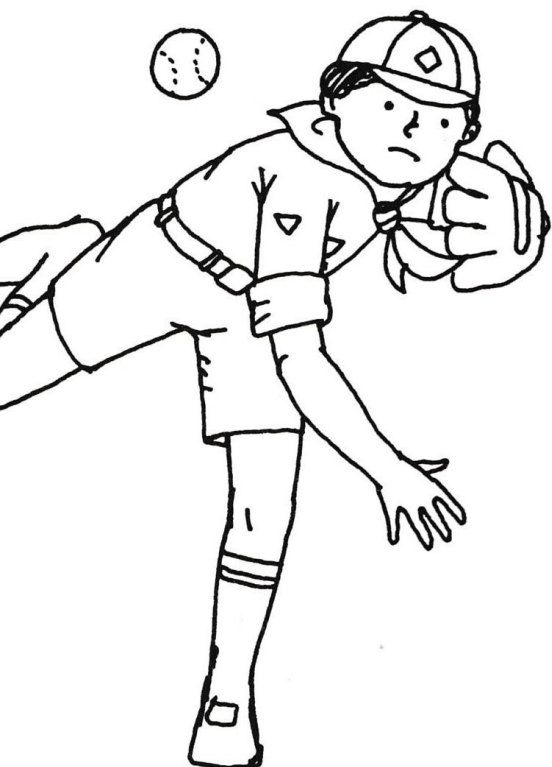
友と一緒に力を合わせ共に考え喜び合った事は、ほくの心の宝です。

二十五周年に寄せて

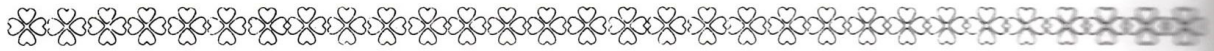
千 島 道 子

二十五周年を心からお祝い申し上げます。三年前の入団式、数ヶ月間の送り迎え、そして、夏のキャンプを境に一人で行けるようになり、ひと安心。幼児期は、体が弱く外で遊ぶことの無い子でしたので、身心共に健康にと願っての入団でした。スカウト活動を通して、「カブ隊のさだめ」を、よく理解し、遊びや、生活の中で、役立て、大きく成長することを願ってやみません。

今後のますますのご発展をお祈りいたします。



ぼくは、今水泳を一生けん命練習している。学校では一級も取れた。早く、中級、上級と進みたい。もうお父さまよりもうまいんだ。でも、お父さまもいろんな事をうまくする。ぼくもナイフもつかえるし、穴もほれるし、火もおこせるし、花もすこしはいじれるし、料理もすこしできる。だけれどもお父さまのやることにはとてもかなわない。おそわりたくても仕事がいそがしく教えてもらえない。勝手にやればすぐにおこられる。電気もつかえないのにつかえばこっぴどくながらられて大きなこぶができる。でもうまくやってみたくてたまらない。机の上がとてもきたなくてお父さまもお母さまもなんにも聞いて下れない。どりよくしよう。カブの集会でもつと外で色んなことしてみたい。園庭でのゲームをしたい。リーダーは色んなことをしているからもつと教えてほしい。



日本ボーイスカウト連盟東京地区第一団
25周年記念に際して

大川 修 幸

明日を担う児童少年が集い、ボランティア活動として参加のリーダー諸兄の滅私の後進への教えの中、のびのびと学び、遊び、特技を得、躰られ成長していくスカウト達の場所として素晴らしい環境の中、営々と歴史を重ねこゝに二十五周年記念行事が祝われ、参加出来た父兄としては、この団の今後益々の栄を祈るばかりである。しかし、近年特に、精神の荒廃、心の寄り所のなさ、伝統の美しき躰（社会の躰・家庭の躰）の欠如、自由の吐き違いの利己主義の横行、教育者の器量の乏しさ等々社会問題の累積の中、これを憂い、補うべく、多忙の中、カブスカウト活動に精を出されている杉原隊長、五人の副長、それに大塚リーダーと各デンマザーには日頃の大変な御苦労を感謝したい。この記念行事の準備の手助けに「父の会」なる集いが始まりこれを機会にもつと多数の父兄の参加を求め、父兄間の連絡、協力等密に成れば団の問題（例えば教会の移築間の集会場所、資金の調達、リーダー不足 etc）も話し合え、累積した経験も伝えて行けるのではなからうかと思

カブスカウト

うさぎ 山ノ上 善 和

ぼくは、はじめてはいるときにドキドキして「いやだなあ」と思ったけどやっぱり入ってよかったと思います。

だけど一つだけさんねんなことがあります。それは、昭和五十四年八月二日にキャンプがあったんだけどその前の日にうでをおってしまったのでいかなかったのです。

だけどやっぱりカブスカウトは、楽しいです。何よりも、楽しみは、組しゆう会です。絵をかいたり何か作ったりしてとても楽しいです。あと、どこかへ行ったりするのも楽しいです。たとえばバスピクニックや見学やらとたくさんあります。

だから、ぼくは、カブスカウトにはいつてほんとうによかったなあと思います。

おわり



スカウトらしさ

山ノ上 善 昭

私は子供と同様、初めてスカウトを知り、活動の仲間にも入れてもらった。色々知らされ、学ぶ所もあり、息子がどの様に変って行くか楽しみです。

これはある団に招待され、色々なラリーを競っている時の事です。港一団と他の団との混成で一つの組が作られた。この時我が団のスカウト（組長）がその組の長に命ぜられた。すかさず整列させ、各スカウト差別なく服装を整えて、チーフの曲りを直している。勿論口調も何時もと同じに「オイ！ほら！早くしろよ。」とやっている。この光景が極く自然に出来ている所が何とも子供らしく、又スカウトらしく思えて感激した。これは当り前の事かも知れない。しかし大人にはなかなか出来ないと思う。これらの事は日ごろの訓練によるものと思じ、頼もしくも感じました。我が息子も早くこの様な事を修得し、リーダーシップを身につけてほしい。

ぼくは、キャンプでぬる時、いつも「お父さんや、お母さんや、弟、今なにやっているかなあ。」と思いました。

ぼくと、ふじもと君と、そのお父さん、三人の時だけ、ふとんの間を少しはなして、大の字になって、ねっころがったり、森のけしきなどを見てはなしていました。

次の朝、おもてのけしきを見ると、とてもきれいでした。

「ぼくもこんなきれいなところに住んでみたい。」と思いました。

夜のたんけんの時ぼくは、少しこわかったです。

山のふもとの方の町の光が、おおかみの目のように見えました。

山は、つなみのように見え、木は、かいぶつのように見えました。

来年もキャンプに行きたいです。

♡ B P ↓ ベーデンパウエル ↓ ボーイスカウトを

つくった人

今、私達の暮しの中に、信仰というものがほとんど存在していません。昔の人々が、野の仏を心から信じ、敬い、やさしい気持でそれをお世話した事も、西欧の人々が、生れながらにして神と共に生きるという事も、今の私達にはありません。

そうしたもの、深く心ひかれながらも、素直に入れない自分をもどかしく思っております。小さい時から、自然に身につけていた、生活の基準となつて、大きなささえになつてくれたらうと思います。

カブ隊の約束、さだめを知った時、こういうものが信仰に代るものとして、成長してくれたら、後々の生活の中の大きなよりどころとなつて、気持よく生活する事が出来ると思います。

カブの種々の活動の中で、それが自然に、しかも、徹底して身につくよう、願つてやみません。

三くみ

デン・マザー感

デンマザー 渡 辺 和 枝

どうか、デンマザーにならない様に願っていたにもかかわらず、どこで歯車が狂ったのか、この大役を引き受けて七ヶ月、何とか、ここ迄やってこられたのは、御両親の協力と、素直なスカウト達に恵まれたお陰と感謝しております。

3組のスカウト達は、同年代の子供と比較しても本当に素直な子供達ばかりです。この素直さを持ち続けると共に、もっと全身でぶつかって行けたら、素晴らしいスカウトになる事でしよう。

しぶしぶ引き受けた、D・Mですが、月数を経るにしたがって、引き受けてよかったと思ふ様になりました。私にとっては、多くのスカウトと、そして他のD・Mの方と接する事により、大いにプラスになる何かを得たつもりです。これからD・Mになる、お母様方どうか、御自分の為と思ひ、心良くお引き受け下さる事をお願い、いたします。

デンチーフになつて

藤 井 優 介

ぼくは、六年の時からボーイスカウトをやっていたもう一年もたつてしまひ中一になつてカブスカウトのデンチーフをやることになりました。

カブたいは5年の時でやめたのであまりくわしくはおぼえていないけどやっているうちにだんだんきおくがもどつてきてカブたいのころをおもひ出します。

ぼくは、3班をうけもつていて組長の鈴木くんをはじめたくさんの組いんといっしょに活動をしています。

むかしのカブにくらべてちよつと活気がないようなかんじがしますがみんないっしょけんめいにやっているようです。

このカブの人たちが6年生になつてりっぱにボーイスカウトにきてもらいたいです。

だからぼくもいっしょけんめいデンチーフをやつていきたいと思ひます。

カブの思い出

くま 鈴木 晃

最初、ぼくは、カブに行くのがいやでたまりませんでした。でも教会につくと、なぜか面白くなってしまふのでした。

野球の帰りで、ユニホーム姿で隊長と面せつした時からもう2年もたちました。

またもや野球の帰りで、ぎりぎりのすべりこみで間にあった入団式。

行くのがとてもいやだった初めてのキャンプ。

組のお別れ会の時、バーベキューのようなものをやり、その後、つりをしてさおをおったこと、などぼくにもいろいろ思い出があります。

こんなこともありました。

4年の時のキャンプの時、最後の日のキャンプファイヤーで、各組のげきで、むりやり馬をやらされたり、カブ最後の夏季キャンプの時にかぜをひいたり……。

このように、本当にいろんなカブの思い出があります。

今、3、4年の君達、ぼくを追いぬかすぐらい思い出を作ってカブを卒業して下さい。

(ぼくはあと五十くらい思い出がある)

三人三様

母 鈴木 紀子

我が家の三人の子供は、東京四団、港一団にお世話になっております。

長女真理子ー中二(シニア) 長男晃ー小五(カブ) 二女由巳ー小一(ブラウニー) 三人三様

真理子はよく入団したての頃、デイキャンプやキャンプの時帰りたいと泣き、随分とリーダーを困らせましたようです。でも昨年は、精勤賞を戴き、今度は私が泣きました。

晃は、カブ最後のキャンプで熱を出し、皆様に大変お世話をおかけ致しまして、有がとう存じました。それでもとても楽しかったのか、「僕ずっとカブ隊にいたいよ」と申しております。由巳は身体も小さく始めてのキャンプです。由巳は身体も小さく始めてのキャンプ心配致しましたが、小浅間登山最後迄頑張り通し、親の方がビックリ。これもひとえに、陰で支えて下さる、隊長、リーダー、団委員、デスマザーの皆様方のお陰と感謝しております。今後共どうぞよろしく御指導下さいませ。

カブスカウトに入って

渡 辺 英 治

カブスカウトに入ってよかったと思う。ハイキング、キャンプがたのしかった。いろいろな所へ行ったことがたのしかった。次長にえらばれた。いままでやったことがないゲームを教えてもらいよかったと思う。学校などでやったことのないこともやった。組集会は、工作をしたり資料をつくる。とてもたのしい。まだボーイスカウトになってもつづけていきたい。



三組 渡 辺 英 佳

子供の成長が、親の気がつく以上に、日々時間の経過に啞然と、している毎日、二年前子供と共に厳肅な中に参加した入隊式が昨日のように思われる。今年でスカウト発足二十五周年目の事、日頃の隊長初めリーダーや、又他の役職のある方々の指導に対し、深く感謝する次第です。昨年夏カブのキャンプ修善寺「ぼくらは武将」に記録係として、カメラをかついで参加し、この目で日頃のカブ隊の、「スカウトの約束」「カブ隊のさだめ」「カブスカウトの標言」を見る事が出来た。隊長が集会のために隊員に対し、何を指導しようとしているかも、理解出来た様に思われた。

我子も特別のことがないかぎり、土曜日の集会を楽しみにして、参加している様である。先日の土曜日、私も仕事が休みだったので、子供に「たまにはお父さんにつきあえよ」と云って見た。間を入れずに「ダメ」の言葉が帰って来た。

それぞれ指導される方にも、各自の生活の時間を犠牲にしてまで、カブスカウト発展のために尽されている事に心から感謝すると共に、なを一層の発展と御努力を期待したい。

くま 平 田 忠 明

ほくたちスカウトは、集会でいろいろなことをして、学校生活とはちがったことで、勉強になっていきます。ほくは制服を着ると、カブ隊の一人としてがんばる気持ちになります。この間、学校の帰りにおばあさんに場所を聞かれてそこまで一しょに行ってあげました。そのおばあさんが学校へ親切にしてくれたからと、とどけて下さって、先生よりほくはほめられました。これもスカウトとしての精神からくるものかとうれしくなりました。これからもスカウトとして、世の中のため、自分のためになるように、がんばりたいと思います。



三組 平 田 佳 枝

カブ隊二十五周年とのこと、おめでとうございます。お世話になりました。あと何ヶ月かで二年すぎることになります。毎週土曜日の集会、あちこちでの見学、キャンプ、親子での集いなど、大変楽しく活動させて頂いております。これも隊長はじめ、各副長、お父様、お母様方の献身なる努力と、感謝いたしております。我が子もスカウトとして、成長しつつある事を、喜んでおります。このさき、何十年、何百年も絶えることなく益々の御発展を、心よりお祈りいたします。

アフリカの料理を作った事

くま 依田直純

ほくたちカブスカウトは、港区青年館へ行って料理を作りました。ほんとは、決まっている料理をやらなくてはいけませんが、三組の担当のアフリカ料理だけは図鑑にのっていないので考えて作りました。やった料理はふかしたさつまいもと、バターでいためたコーンです。食べてみたらおいしかったからこんど作ってみようと思いました。



初めてのキャンプ

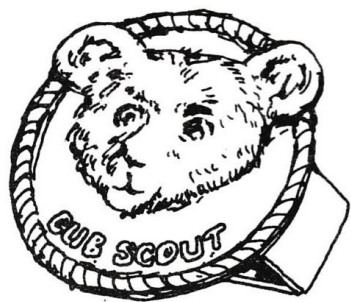
依田多賀子

八ヶ岳青山学院寮へキャンプに出かけた息子の後を追って、どんな生活を送っているのかと心配しながら参加させて頂きました。その時、自分の子供が他のスカウトの皆さんと比べ、生活面での幼稚さを痛切に感じました。それらの若いスカウトをまとめている組長、デンマザーが本当にすばらしく見えました。わが子も五年生になればあんなに、たのもしくなるのかしらと期待となくさめのいり混じった気持ちでいっぱいでした。今あの時の組長と同じ年令になりカブスカウト生活も終番に入ろうとしています。三年間、彼は彼なりに色んなことを学んだことと思います。欲を言えばきりがありませんがとにかく、素直で明るい良い子に育ってくれたと思います。今あの八ヶ岳の山なみを幼かったわが子を思い浮かべては年月の流れを痛感し又、隊の運営に当って下さった皆様に心より感謝いたします。思い出を結ばせて頂きます。

上田へのキャンプに行つて

しか 城 所 明 利

十観山へ各組ごと5分おきにゆうほどうに入いって行きました。リボンを目印にどんどん上へいってチェックポイントでいろんなことをやりました。木とんのじゅつ、地図うつし、なわむすび、ひょうろうさがし（たからさがし）などいろいろやりました。はじめの道は楽だったけど上にいくほど急になりものすごい急な坂になりました。しかしもうあるけないといおうとしたけどぐつとがまんしてがんばつてのぼりました。もうちよう上だと思つたらさらに急になつていてザイルがはつてあり、それにそつて上にのぼつてひょうろうが人をたべて下へ下りました。こんな急な道の登山ははじめてです。とてもいいたいけんをし、苦しかったけどおもしろかった。



知恵遅れのボーイスカウト

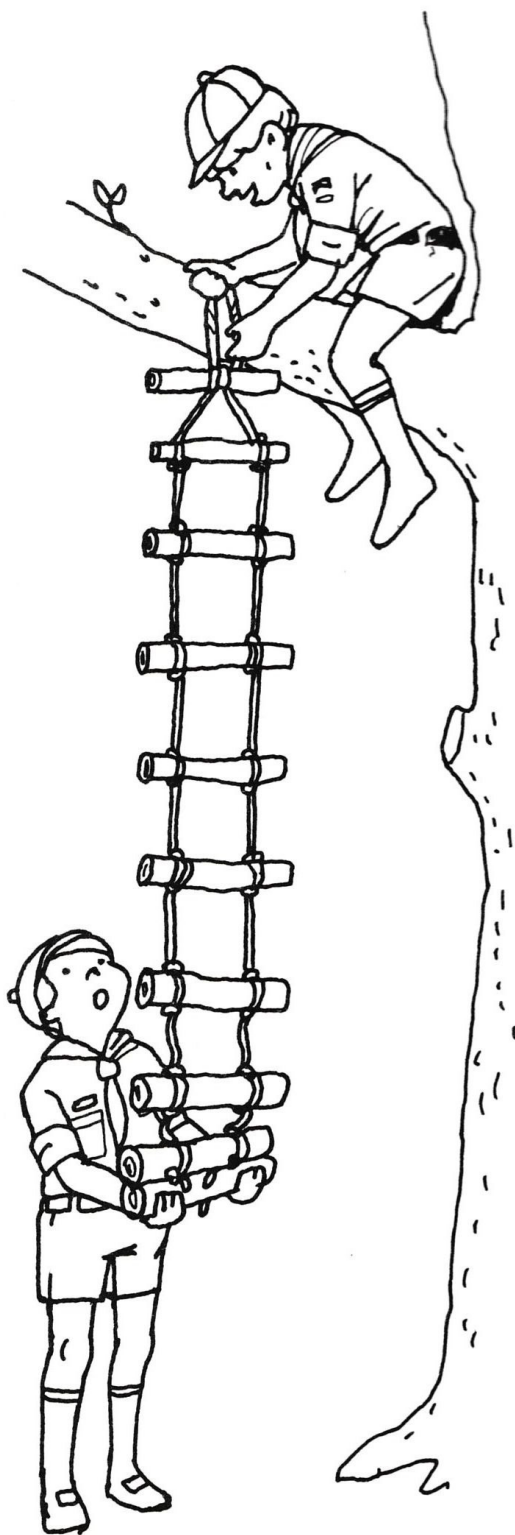
城 所 芳 徳

昭和十七年の春、中野区の小学校から都下武蔵境の私塾方式のA学園の五年に転校しました。全校生徒数七十余人の学校で、五年のクラスメートは僅か十四人でした。その中に知恵遅れのB君と呼ぶ少年が一人居りました。それから十年たった昭和二十七年一月、私は青学大に大学一年生として在学して居りましたが、十年振りの同窓会の呼び掛けを受けて三鷹市に移転していた母校を訪ねました。その新設間もない母校高等部の教室で、高校二年に在籍するあのB君の姿を見出したのです。彼は英語の授業で、教師の手伝いと云う形で参加していた外人の高校生と、結構上手に会話を交していました。そのB君が同窓会の席上にはボーイスカウトの制服に着替えて現れたのです。驚き驚きの連続でした。長々と続く同窓会を退席したB君は校庭に近所のスカウト達を集めて笛を吹き号令をかけてスカウト活動を始めました。残った私達は校舎の窓越しにB君達の姿を見つめ乍ら、その日の同窓会を終えました。そのB君は今日どの様なスカウト活動をしているのでしょうか?!

一番楽しかったこと

しか上野剛史

いままでのカブの活動の中で一番楽しかったことはたこ上げ大会でした。生まれて初めて父に教わりながらたこを作りました。紙に絵を書いて竹でじくを作ったこ糸をつけて出来上がりました。たこ上げ大会の日父と弟といっしょに行きました。たこを上げてみたら高く上って初めてにしてはよくとんだと思ううれしかったでした。でも風が強くてすぐびりびりにやぶけてがっかりしました。また来年のたこ上げ大会が楽しみです。



カブに入部してから早一年半を過ぎようとしております。

最初は仲々皆さんの中に入れず私共も心配いたしておりましたがお陰様で今はとても楽しく活動いたしているようです。各月のテーマを通じ又色々な課外活動によって沢山のことを学び体験し家や学校では経験出来ないことを吸収しております。

今後、隊長さん始め副長、リーダー、デンマザーのもとで皆さんが大きく成長し飛躍することを祈っております。

上野 由紀子

キャン

うさぎ 山本航平

八月二日、特急あさま一号は十時上田につきました。さいしょに上田城を見学しました。池の見える所で食事をして、今度はバスであおきについたのが、一時頃です。昼ねをしてさっそくたんけんに出かけました。夕食の後には忍者合戦をしました。忍者合戦とはゲームをするのです。そしてほくたちは総合優勝しました。二日目は、忍者くんれんです。いろんなくんれんをしました。木と木の間に、はったロープをロープウェイみたいに行くところで次長がおっこちて、けがをしまいました。ほくはカウボーイのわなげができませんでした。三日目は忍者修行で一時間ほどかかって山に登りました。ほくたちは、もうくたくたでしたが、夜のキャンプファイヤーは歌ったりおどったりしてとてもおもしろかったです。よく日、ほくたちは楽しかったあおきをあとにしました。

カブに入

山本洋子

「ものすごく面白かった。行ってトクした。」今年の春、国際基督教大学の特別隊集会に初めて参加して帰ってきた息子に、「どうだった」と尋ねたら、いささか興奮気味にこう答えました。面白さの度合を、彼一流の表現を借りると、正にこの一言に凝縮された様でそれ程あの日の彼は満足しておりました。着換えはおろか、リュックを肩から下ろすことも忘れて、次から次へあふれてくる言葉を整理するのもどかしく、身振り手振りも加えて家族に報告しておりました。土の匂いが制服の袖口からこぼれ、春の太陽を背にいっぱい吸収した彼は、強靱な根を張る若草にも似て、早や「幼年」から「少年」へ成長したのだと、私達はその横顔をたのもしく眺めたものでした。それから半年、彼の心のアルバムは、次々と楽しい思い出に彩られ嬉々として行事に参加しております。

カブスカウトで思ったこと

うさぎ 小 西 大 輔

ほくはまだりすの時、カブスカウトに、入りたいと思ったけれど今は、時どきいやになるときがある。でも青年かんで、りよりりをつくることは楽しかった。それからキャンプの時は、たくさんおこられて、いたけれどまあまあだった。外国の家作りも、楽しかった。それからおもしろいなあと、思う集会もたびたびあった。それからもう一ついいことがあった。それは、行く時や帰る時「かっこいいね。」と言われると、とてもきもちがよくなった。そういう日は、よく、気分がよくなった。歌を歌って、帰る日があった。集会で、しっほとりみたいなおもしろいものを作って、あそぶ時もとて、おもしろかった。りすの時、のほりほりや、おにごっこをしておもしろかった。けれど、ほんとに、おもしろくない時もある。

終

カブキャンプについての雑感

小 西 誠 一 郎

前日の疲れが、残っているのに不思議と、早く目がさめる。自然へのあこがれの為か、散歩をする事にした。朝もやが立ちこめる山道を登る。木々の枝をリスが飛び廻る。野生のリスなど久しぶりだ。都会の子供達はこの様なありのままの自然を見た事があるのだろうか、そして何を、考え何をするのだろうか。宿に戻る。朝礼、カブキャンプの一日の始まりだ。登山、忍者武器作り、キャンプファイヤー、デンダッドとしては、勝手が分らず、リーダーなどに負担をかけてしまったが、四日間を子供達と一緒に楽しく過した。自然の中で楽しそうな子供を見て、田舎で、遊んだ昔を思い出した。過ぎて帰らぬ……少年時代への感傷を、呼びおこしてくれたキャンプだった。

四 く み

デンマザー 末 吉 治 子

デンマザーとしての役割がいかに大変なことであるか痛切に思うこの頃です。
子供たちは、それぞれに個性を持っていなからとてもよくまとまり、キャンプの時、発表の時など、りっぱにやってくれます。そばでハラハラしていた気持はどこへやら、かれらのすばらしい能力には驚くばかりです。
今まで一人の子供しか接する事がなかった私でしたが、一度に七人は目まぐるしく、気がつかないことばかりですが、デンチーフの協力が大きく、とても力強いものを感じます。



デンチーフになって

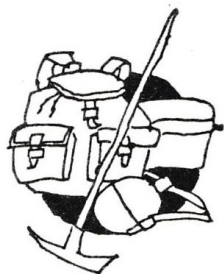
デンチーフ 山 寺 健 基

ほくは、デンチーフに任命されるまでは、とてもなりたいと思っていたが、一度なってみると、いろいろな苦労と緊張の連続だったが、キャンプの2日めから割り合いなれてきたと自分でも思っている。
今年のキャンプに行ってほくのもった感想は、あますぎると思った。
けれど、よく考えてみると、カブでもいろいろなことを勉強していた。
だからほくもいっしょうけんめい協力したいと思う。

カブ生活での思い出

くま 大和 健一

カブ生活最後の年も、もう半分を過ぎました。今になって思い出すと、あっという間だったようですが、しかし楽しかったことや苦しかったことなどいろいろあります。まず、キャンプです。三年で八ヶ岳、四年で修善寺五年で上田と三回ありましたが一番印象に残ったのは、カブ初めてのキャンプとなった八ヶ岳です。なにしろ初めてだったので、とてもとまどいしましたが、組長や次長、それに上級生に助けられて、なんとか3泊4日を過ごせました。そのほかいもほり、バザー、キリスト教大学のオリンピックなどいろいろ楽しいことがたくさんありました。逆に、赤い羽根など苦しいこともありました。カブ二十五周年をむかえてのこり少ない集会を充実したカブ生活にしたいです。



大和 鴻志

もうかなり前になりますが、大井埠頭の海上公園で行なわれたタコ上げ大会に参加したことがあります。当日は快晴の暖かい日でしたが、風がほとんどないために、みんなタコを上げるのに苦労しました。骨を曲げたり、足の長さを調節したり子供達といろいろ工夫をしてみましたが、西洋ダコを除くとなかなか上がりにくかったことを覚えています。それでもカブの隊長達もわれわれも心を合わせて楽しい一日を過ごすことができました。私はリーダーとしての経験はありませんが、カブスカウト活動の意義の一つは、このように遊びにしても全員が協力しながらよりよい結果を実現するように工夫するところにあるのではないか、とっております。今後とも一致協力してより一層の発展をとげることを期待いたします。

カブスカウトに入って

くま 吉田 祐治

ほくは、カブスカウトに入る前は、どんなところかどんな事を、やるのかどんな人がいるのかうれいようりで心配なようによくわかりませんでした。

入隊式の時は、とてもきんちようしていました。

どの組に、入るかたのしみでした。

その時ほくは、六組に入りました。

同じ学校のせんぱいの人が、いたのでほかの人たちともすぐ仲よくなれました。

2年間ずっとその組にいたのですが、人数のつごうで六組が、つぶれてしまい五組までになつてしまいました。

その時は、とてもさんねんでした。

その時まで六組は、けっこういい成績だったのでなおさらさんねんでした。

でも新しく入った組、四組で楽しくやっています。

デンマザー 吉田 和子

私がデンマザーをお受けしたのは、53年4月からです。初めの内は、私がごこない為、子供達ともしっかりいきませんでした。一ヶ月位して、皆が私の事を、「デンマザー」と呼ぶ様になった頃から、段々余裕が出て来て、子供達の性格もわかる様になりました。エンジの巣の中には、真面目な子、ひょうきん者甘えん坊、努力型等、いろいろな子がいました。が、一つの巣箱になると、素直で明るい組でした。

何よりも大変であり、又楽しかったのは、修善寺のキャンプ生活でした。忙がしいに尽きる四日間でしたが、今思えば、組長を中心に励ましあい、労りあっている姿が、懐かしく思い出されます。わずか半年でしたが、大変有意義な月日でした。隊長様、副長の方々、御父兄の皆様、お世話になりました。お子様達が、益々元気で素晴らしいスカウトに、成長なさる事をお祈り致します。

カブにはいって

くま 大久保 文 貴

ほくは、カブにはいって3年目です。楽しかったこともいっぱいありますが、できなくてはじをかいたこともありましたが、でもはじをかいて、いろいろなことを、おしえてもらいました。

カブブックのさかだちのかもくをやる時のことです。ほくは少し太りぎみなので、さかだちが出来なくて、下にざぶとんを何枚もかさねたり、横にころんでふすまをはずしたり、頭からおっこちてなみだがでたり、何回も何回もくりかえしてやりました。

やっと出来た時のよろこびは気持ちのいいものでした。ほくはそれで少し自信がついた。なんでもやればできるんだ。それからキャンプの時など野外生活などのやり方とか、ロープの結び方など、知らなかった事がわかるようになり、ふだんの生活でも役に立っています。

望

大久保 和 子

ひと昔前の子供と異って、現在の子供達は遊びの内容でも、大分違ってしまいました。今の教育事情では仕方のない事ではありますが戸外での活動も少なくなったように思われます。

心のゆとりがなくなるようで

心が荒れて行くようで

自然の中でのびのびと活動させたい少年期、自然を愛し、生命の尊さを知り、隣人を愛しそして創作の喜びを知る、そんな活動の中からいろいろな事を学んで、強い精神と豊かな心をもつ、カブ、ポイスカウトに育って、ほしいものです。親として、そのような環境を作ってやりたいと思っておりますが、忙がしさに追われて実行出来ないものです。その願いをカブスカウトで味あわせていただいている事はとても幸せに思っています。隊長始め諸リーダーの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

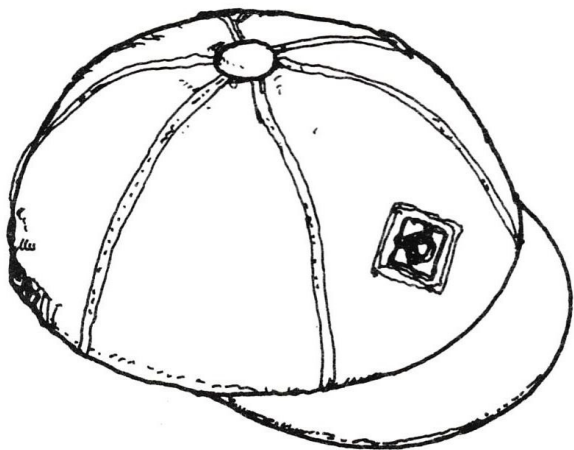
25周年

しか 長塚隆之

ぼくはカブスカウトになってよかったと思います。

なぜかというところ、ぼくがカブになってからいろいろな記念などがありそしていまが25周年です。

25周年にはいろいろなことをやると聞いたのでカブスカウトにはいつてよかったです。もし一団のカブたいにはいれなかったら、こんなことはできなかつたと思います。



カブスカウト

長塚邦子

街角で見るボーイスカウトの秩序ある行動と制服姿に憧れていました。自分の子供が、カブスカウトに入れる三年生になり念願のスカウトになりました。

今年の夏期キャンプには親子で参加させて戴きました。キャンプの生活は本当に大変でした。朝食の果物の心配、おやつ、子供達が寝るまで、そして寝てからの明日の為の、作戦会議、夜遅くまでありました。本当に隊長はじめ、デンマザー達の気が休まる時がない様子をただ見ているだけの私でした。このキャンプを通して、残りの一年半の、カブスカウトの活動に、お手伝いをしていきたいと思えます。

25周年、おめでとうございます。

しか 末 吉 正 男

カブスカウトに入ってから一番印象に残ったのは、キャンプの時でした。やった場所は、上田市のうきよりのほよう所でした。三ぱく四日でした。そのキャンプの中で、一番楽しかったのは、組たいこのゲームでした。いろいろなゲームがありました。とくに一番おもしろかったのは、ひらがなを三十六こか、三十五こ集めて食べ物の名前を作るのでした。デンチーフや、デンダットやデンマザーも手伝ってくれました。それから、一位になった時もありました。

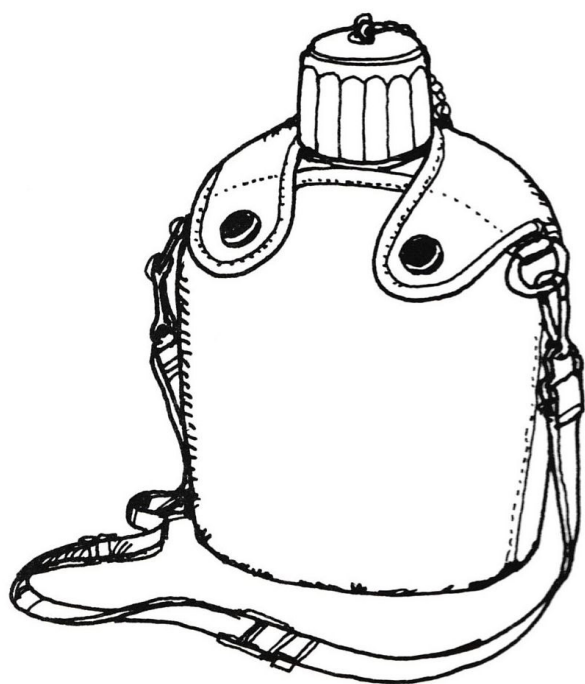
来年は、くまスカウトなのでカブスカウトらしく、もっとしっかりやっ行って行きたいと思っています。

子と親のカブスカウト

末 吉 孝 正

おとなしくて内弁慶な我が子が、カブスカウトという集団の中で生活していくことは、彼のためにはとてもよい体験でしょう。毎週土曜日になると、ハリキッテ仕度をして出かけてゆきます。時々、子供とともにカブブックを開き考えみると親自身の子供に対する考え方の一助にもなっているし、カブ活動も理解できると思う。

出来るかぎりの協力はしたいと思うので、今後よろしく願います。



カブスカウトに入ってよかったこと

うさぎ おの やすたか

ほくは、カブスカウトに、入る時の、入たいしきは、むねがドキドキしましたが、カブスカウトで、いろいろな、ゲームをやって、学校で、クラスの子におしえたら、なんと!! 大人気です。

そのゲームの名前は、「ほうしとり。」です。

それから、カブスカウトに、入ってよかったことは、電車のキップを、どうやって買えばいいかも、わかるようになりました。

他にも、キャンプファイヤーを、やった時のげきで、いち番いいからって、まきものをもらえてよかったです。

それに、船にのれたりできて、とてもよかったです。

これからも、カブスカウトを、つづけたいです。

カブスカウトに思う

小野 保夫

今年より、子供をカブスカウトに、お願いし、初めてスカウト活動の意義を、知りました。又野外活動や、キャンプに参加し、隊長はもとより各リーダー、デンマザー、デンチーフの御苦労に頭の下がる思いです。

子供が入団して半年、此の頃、疑問に思う事があります。入団の時隊長に、カブの活動に父親の援助が必要な場合は、協力しますと約束した手前、何んとか時間を作って、参加してきましたが、参加する方々の顔ぶれが、常に決っている様です。子供を入団させてしまえば、あとは知りませんと言う顔をしている親もいるのではないのでしょうか。私が感じた事では、父親ももう少し協力しても良いのではないのでしょうか。又、積極的に協力しようではありませんか。

赤い羽根のこと

うさぎ 加茂政輝

ほくたちは、カブ隊で赤い羽根に出かけました。一組、二組、三組は、虎ノ門でした。四組と五組は、六本木交差点でやりました。五組は、アマンドの前でやって四組は、せいしどうの本屋の前でやりました。さいしよは、ほくと小野君は、声が小さいさかたけれどさい後のほうで声が大きくなってきました。と中で、デンチーフが、きもち悪くなったけどそのままつづけました。終わったときには、ほっとしたきぶんでした。ほくは、いなかのおじいちゃんの所まで行けばいいと思います。どうしてかと言うと、元気なんだけど、歩けないしずっとふとんの中にとじこもっているおじいちゃんを、見ればそう思います。今年、いなかに行けなかったけど、冬休みになったら、ぜったいに行きます。

(おわり)



カブスカウトの一員になって

加茂玉恵

「胸がどきどきしたよ。」と、緊張した面持ちで、入隊式をすませ、生き生きとした我が子の顔を見て、ほっとした私。

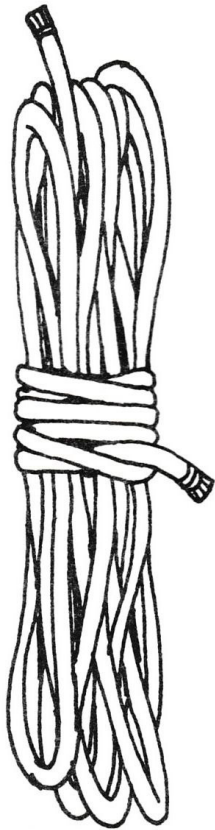
五、六月は、見学が多く、現地集合、解散が、悩みのタネでした。今迄、一人でバスなど全く、乗ったことないので、無事に戻ってくるまで、本当に心配でした。

デンマザー、四組のメンバー、その他多くの人に助けられ、今、少しずつ、一人立ち出来る様になった姿に、頼もしさも加わった様な気もいたします。(親バカだと思いつつながら……)

十月一日の赤い羽根募金活動から、紅潮した顔(真夏日の陽気で)で帰ってきた子どもは、「明日もやりたいなあ。」と一言。

社会の一員であるというのを幼な心に、肌で感じた時間であったようでした。

やはり、子どものうちから、豊かな経験をもつことが、大事なことだと、子どもに教えられています。



五くみ

デンマザー 黒川 絢子

創立二十五周年に当り、心よりお祝を申し上げます。軌道に乗る迄の、隊長初めリーダーの方々の御尽力並びにその御辛苦は、計り知れない事と、存じ上げます。この四月より長男彰を、心身共に鍛え、協調性のある子に願入団致しました。極めて簡単だからと説得され、五組のデンマザーをお引受けし、現在の私を襲う雑用の嵐は、時の流れの早さと共に、半年を経ました。学生生活以来のキャンプにも参加し、学び得る物は、何ものにも得がたい価値有ると思っております。今後の増々の御発展を心より、御祈り申し上げます。

デンチーフになって

デンチーフ 柏木 昌夫

ほくがカブにいた頃の、デンチーフというものは、とても楽な仕事に見えた。ただ、集会に出てくるだけでいいものだと思っていた。だけど、ほくがデンチーフになって、一番最初に感じたことは、デンチーフというものは、なんて、忙しいものだろう、ということだった。なにしろ、今のカブの人達は、何事にも積極的でない。だから、その分ほく達、デンチーフが働くので、忙がしいと思うようになってくるのだろう。

それから、デンチーフになって、二番に感じたことは、ご父兄の方が、とても、いろいろなことを手伝ってくれるということ。ほくの時は、そういう点が全然、違うと思った。他にも、いろいろなことを思った。後、四か月位しかないが、それまで、いろいろな意味で、カブの人達、リーダー、デンマザー、デンダッドの人達とやっていきたいと思う。

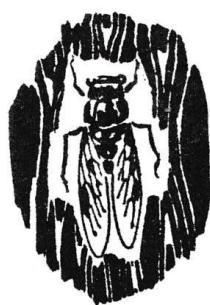
組長になつて

くま 高井英治

組長 僕にとって大変な仕事、わけは、「隊の中で僕達の組がたるんでいると隊の人にめいわくをかける。」と言う事をいつも頭に置かなければならないからだ。それに、組がまとまっていなくて、注意されるのが、結局は僕になるからだ。だから大変な仕事だ。

ここから僕の組長になつての反省の一番大きな事を書く。それは、夏季キャンプで、うさぎスカウトをいじめた事である。その時は「自分にやられた。」と言う気持ちがあったからだ。だが結局、しかスカウトをいじめてしまった。それに失敗してしまつた事もある。それは組の人が集会中に遊んでいて、それをとめなければいけないのに一諸に遊んでしまつた事などだ。

今度からは、反省や失敗の事を注意して良い組長にならうと思う。



二十五周年によせて

元デンマザー 高井千恵子

二十五周年おめでとうございます。歴史ある靈南坂カブ隊に入隊して早三年が過ぎようとしています。その間僅か半年間ではありましたがデンマザーという仕事に携わり、スカウトと身近に接する事が出来た事を幸福に思っております。現在、こども達に欠けている縦の繋がりを基に、規律を守り仲間意識を育てるカブ隊、その中で我が子は何を学んだでしょう。五つの誓を頭の隅に置きながらも、過渡期の中で仲々立派なスカウトには成りきれなかつた様です。しかし今こゝに、組長という責任ある仕事の中の失敗や経験により、遅れ馳せながら考える事を知り、自分なりに悩み、反省し、その中で「自覚」を持つ事が出来る様になりました。そして何かに向つて確実に第一歩を踏み出しました。これからの社会を担うこのこども達が、明るく健全に育つてくれる事を願つてやみません。そして最後に、杉原隊長はじめ副長の皆様の温いお心に深く感謝いたします。

カブに入っ

くま 三村 達也

カブに入ってよかったと思うことは、学校の友達とは別に色々な小学校の友達と仲良くなれた事です。又、夏のキャンプで鍛えられているので、時折、学校で行く旅行でも少少の事では、くたばったことはありません。

身体はそれほど大きくありませんが頑張りがきくとゆうことは自信があります。

友達が沢山出来たのも体力に自信が持てる様になったのも、カブ隊に入隊して得られたものだと思います。それとは反対に、土曜日の午後、友達に野球にさそわれたり、又、お誕生日に招かれた時など断るのがとても残念です。がこのごろでは友人も僕がカブに入っている事を知ってからは、さそわれることがなくなったので断る残念さもなくなりました。本当の気持としては野球をしたり遊ぶ方がうれしいのです。断ることはとても勇気がいることだと思います。あと半年のカブ活動を頑張ろうと心にちかいます。



さわやかな正義感

三村 富代

子供の学校の先生から数年前に伺ったお話です。その方のご息が大学卒業を数ヶ月後にひかえ、一流会社就職も決ったある日、国電の中でタバコを吸っている四、五人のグループに、「禁煙ですよ」と注意したところもみ合いとなり、こぜり合いの末四ツ谷駅で引きずり降ろされ、殴る蹴るの暴力をふるわれ、ケガをして家に帰って来ました。「就職も決り、息子も内心得意になっており、生意気な口調で注意をしたのだろうと思います。」とその方はお話を続けられます。「規則を守らない人に注意をしただけなのに何故……。」と「自分が制服を着た警察官だったら、こんな暴力をふるわれなかっただろうに……。」とその際の口惜しい思いを打ち明けたそうです。そして次の日、警察官になることを決めて、念願かなって内定していた証券会社に行き、入社を辞退してしまつたそうです。それから十年、現在は非行少年の更正、家出人等の相談相手の仕事に従事しておられるのだとその方は、淡々と話されました。この話を伺ってから、しばらくの間は、頭から離れず、この青年の勇気とさわやかさにジーンとしてしまいました。政治の世界でも又社会的にも新聞を開く度に、情けない程、正義とか倫理の希薄になっていく。生き方が、聞く人に感銘を与えるのだと思います。人によつてはこの生き方は馬鹿に見えるかもしれませんが。その選択は大人になってから、自らすればよいのであつて少なくとも少年時代には、我をもかえりみない位の正義感を持つてほしいと思います。まぢがっても四ツ谷駅のホームでの様子を、見て見ないふりをしていた人達の仲間入りはしてほしくない。カブ隊に入隊し、規律ある活動の中で、勇気、正義感を身につけてほしいと望んでいます。

集 会

くま 若 林 憲

一時半ごろに家を、出てバスに乗り、六本木五丁目でありて歩く、つくと、いつも、みんなが遊んでいる。そしてにわに入いり、待っている、副長が来てふえをふき、開会式が始まる。そして、隊長のお話があり、終ると組集をやる。物を作ったり、調べたりする時間だ。時にはケンカをしたりするときもあるし、意見が合わないときもある。そしてまよめの時は、ふつうはみんなあつまって書くのだが、ぼくたちは、書く人こうたいである。その人は他の事をやっている。

そして、組集が終わるころにそうじをやる。そして閉会式のホイッスルが鳴りにわいてしゆのいのり、歌を唄い、終りになっかえる。

あと少してボーイスカウトになるから速いなあと思う。

矢 章 の こ と

若 林 孝 三

昨年、カブ隊の夏祭で使う樽みこしを作るためお手伝いさせていた。樽みこしは子供の頃から担いでいるので大体の構造は知っている積りだったが、樽と担棒の接続部分など肝心のところはどうすればよいかわからず、大分苦労した。

今年の夏休みの宿題として、子供が竹トンボを作ることになった。竹トンボ自体は構造が簡単であるため多寡を繰っていたところ、羽根を削るときどちらに傾斜を付ければよいかわからなくなった。そこで、右利きの人が雑布をしぼる方向に傾斜を付けたところ見事失敗し、竹トンボは上昇するどころか下降するばかりだった。

このように、何事も頭の中だけで考えず、自ら実際にやってみなければ本当に理解したことにならないということを改めて痛感した次第である。

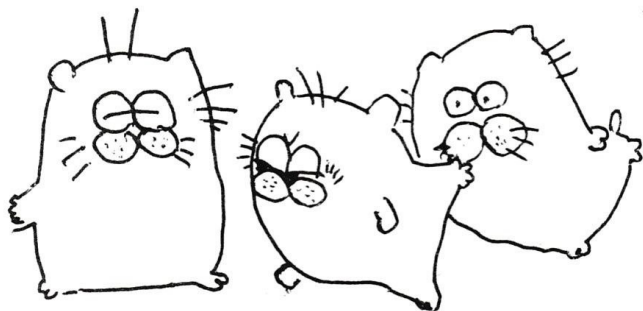
その意味で、カブブックにある各課目は、このことを実践させるものであるから、親にとっても興味があり、子供と一緒に頑張っているが、それは口で言うほど簡単ではなくて都会にいては実行不可能なものがあることもあって、矢章の数は思うように増えない。

さりとて、頭の中で理屈として出来る筈であるとするのは本旨に反するので、矢章の数は少くとも実際にやってみることが大事だと、反省と弁解を重ねていところである。

カブスカウトに入ってしまったこと

しか 森 田 陽 一

カブスカウトは、キャンプやバザーなどがあつてとてもたのしいです。いまは、たこあげ大会にどんなたこをだすかもかんがえたりします。らい年はビニールばりのもつくつて見たいです。ただ、ふしぎなことにさだめをわすれてしまい、さぎょうをやっているので、さぎょうが終わったらすぐにあそんでしまうのです。だから、らい年はしっかりやろうと思います。



カブ隊に寄せて

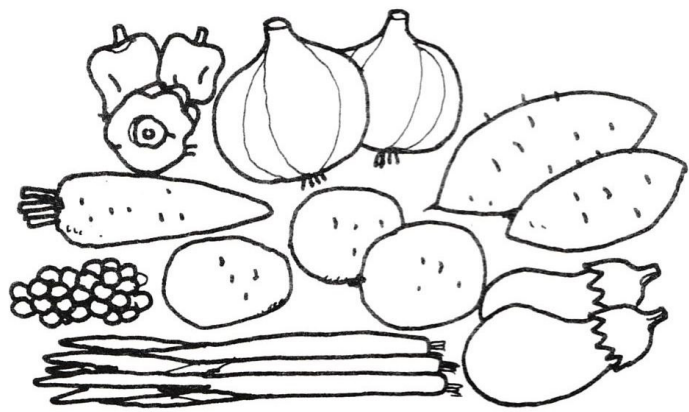
元デンマザー 森 田 とし子

水色地に魚のデザインのチーフをした隊員が、既に二十五回も上進されたとは……。OBの方々の胸の内には、カブ時代の思い出が、どんな風に生きていられる事でしょうか。リーダーの奉仕があつてこそ、港一団の伝統を充実させ、育てられたのだと思います。

昨年からこの夏まで、DMとして徴力ながらお手伝いしましたが、当初は只疲労感ばかりが残る週末でした。我子の監督もゆき届かないのに、あばれたい盛りの七・八人を相手に、手こずる事もたくさんありました。気持ちに余裕を持って、折角の集会を皆で楽しいものにしたたいと心がけ、今になってみますと子供らしさが残されている最期の時に、私自身も本当に得難い経験をさせていただき感謝しています。リーダーやDMにまかせつきりでなく折にふれ、集会に出て、子供達と自分の子の活躍ぶりを、観てやって欲しいものです。新しい発見が必ずある筈です。

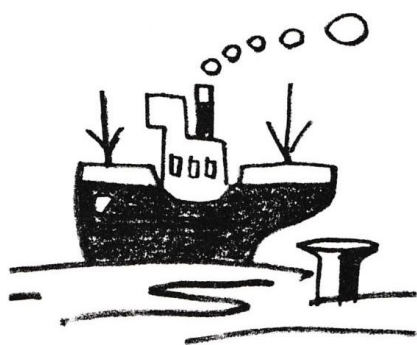
しか 佐藤 健太郎

25周年おめでとうございます。
ほくは、カブに入ってから、はんどうすい
さんをしたいと、ズーと思っていまして。
カブに入ってから一番いやなのが3年、4
年までにすごくいいじめられたことです。
だからほくは、新しく入って来た人にやさ
しくしてあげようと思います。



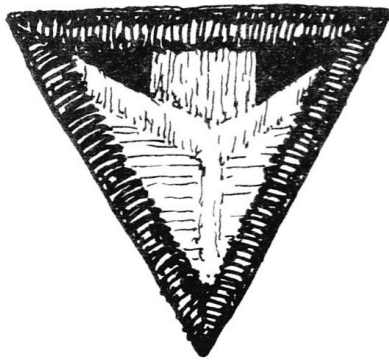
佐藤 雅世子

二十五周年おめでとうございます。
カブのお手伝いで度々、教会には参りますが、
静かな木立ちの中のどっしりと落ち着いたた
たずまいの教会は、私共に日々の喧騒を忘れ
させ、穏やかな気分になんてさせてくれます。
それは私の記憶の中に幼ない頃、父に連れら
れて行った、早朝の日曜学校の新鮮な感動と
さわやかさが忘れられないでいるからなのか
もしれません。子供にもカブの活動を通じ、
普段の生活では得られない、教会や神を身近
かに感じて欲しいと親のささやかな願いを持
って由緒ある霊南坂に入れさせていただきま
した。今までの関係者の御努力に感謝し、こ
れからの隊の繁栄をお祈り致します。



うさぎ 黒川 あきら

ぼくは、四月よりカブスカウトに入りました。お父さんがこのだんのリーダーを、やっていたので、ぼくも入ってよかったと思います。はじめて行ったキャンプのときに、きもだめしとか、忍者じゆぎょうをやったりしてあそびました。キャンプファイヤーのとき、1組から5組までげきをするので、ぼくたちは、人間ピラミッドをやりました。また、らい年のキャンプもいきたいです。



父 黒川 肇

創立二十五周年おめでとうございます。私が東京第四団シースカウトに御世話になったのは、今から二十二年前になります。その後、しばらく仕事の事情により、スカウト活動から離れておりました。昨年十一月、息子がカブスカウトに入団したいと云いだした時、思い出したのは、東京第四団でした。入団面接時に、久し振りに教会を訪れた時に、ステンドグラスのれんが色の壁、木の椅子等は、当時の記憶のままであった様に思いました。更に、隊長のスカウトに対する教育方針をお伺いし、廻りの環境は変われど、教会の建物と東京第四団の精神は、昔と変わっていないという事を感じ、是非息子をお願いすべきだと思いました。今回二十五周年と聞き、時の流れの速さを痛感すると共に、東京第四団の精神を末長く継承して下さる様心よりお願いする次第です。

カブスカウトに入っ

うさぎ 福 島 博 喜

ぼくは、カブスカウトに入っって一番たのしかったことは、キャンプに行っったことです。キャンプから帰っって来っってから、つぎの日、キャンプのたのしかっったことやおもしろかっったことを夏休みのしゆく題の作文に書きました。キャンプの中でも一番おもしろかっったのはフールツポンチ作りと青木とうげーしゆうの、きもだめしです。きもだめしは、さいしよはこわかったけれども、あの方になるとこわくありませんでした。

「つかれたなあ」と、思っったことは、こうきよーしゆうと赤い羽根をうっったことです。赤い羽根をうりおわっった時、声が、かれて足が、ぼうのようにかじました。カブスカウトで一番いやなことは、しゆく題が出ることです。たいへんだっったことは、こうきよーしゆうです。

おわり

福 島 悦 子

入隊以来半年と少々が過ぎたにもかかわらず、子供達を見ておりますと何年も前からお世話に成っっている様に思われるこの頃です。夏のキャンプはとても楽しい思い出となっって残っっている様です。デンマザーを初め皆々様の御苦労などおかまいなしに、色々な出来事を目を輝かせ、時には思い出し笑いをしながら夢中になっって話してくれました。初めて親から離れ、団体生活の中で良い事も、悪い事も知らず知らず学び取り、将来の為に少しづつでも色々な経験を積み重ね自分で判断出来るような子に育ってくれたらと、願っっております。近所では横のつながりのみで、大きい子も小さい子も一緒になっって行動を共にし、同年代では味わえない遊びや考え方などが、必要ではないかと思っっています。学校と家庭以外にも規則を守る場が他にも有るんだ、という事を知る良い機会ではないか!!と、カブに入隊した理由の一つとして考えていきます。

リ
ー
ダ
ー
の
ペ
ー
ジ

が空の主役、世界はますます近くなる。そして
かわらないであろう。
(十五周年記念誌より)

高橋副長がカブの時の隊長が杉原隊長で
した、だから隊長には弱いのです

「心」
カブ隊副長

の貼り紙が解散する時に、みんなが大きな声
で交わすのが、この言葉です。来週もまた
元気で一日の様に、祈りの気持と、いつも
元気で一日の様に、自分自身に言い聞かせて、友
てのスカウトに、自分自身に言い聞かせて、言
一団(東京第四団)に、共に歩んで来た、港第
つのは、区切りの時を迎えて、四半世紀という、ひと
迎えて、百年の時を迎えて、四半世紀という、ひと
心の張り紙、それらもみんなの大きな包みも
元気が、紙、それらもみんなの大きな包みも
様に、大きい、良き社会人となる為に、良き



「港一団カブ隊に奉仕して」

カブ隊副長 笠原章雄

二十五周年おめでとうございます。
私は、昭和三十七年に神戸十五団カブ隊に入
隊して以来ローバースカウトまで続け、カ
ブ隊長として奉仕しておりましたが、転勤の
ためウッドバッチ実修所で大変お世話になっ
た杉原隊長、浦野副長の御紹介で当団に御奉
仕させていただきます。
それまで、とりあえず私もカブ隊長をしてお
りましたが、違う土地で、違う環境で、違う
団で何から何まで今までと違う条件で奉仕す
る事のむつかしさをつくづく知らされました。
特に私などスカウトから約十六年程一つの団
で育ち歴史がある程度あり、基盤もあり、回
りの人も当然全員知っているなかで活動をし
ていたのですからやりやすかったわけです。
それが、急に条件がすべて違ってくる、と面く
らうのもあたり前です。もちろん、ある程度
覚悟はしていたつもりなんです、関東と関
西の違い、団のカラーというものは、なかな
か溶け合うものではありません。
この活動は地域社会におけるものなのです
から……しかし、自分自身のスカウティングに

とってこれ程勉強になる事はありません。色々な点で、それぞれの良い面、悪い面が次々と見えてきます。又、カピングだけを取り上げてみても杉原隊長といっしょにさせていただけども、大変勉強になります。逆に、私の育った団の良い点、悪い点もよくわかります。そういったなかで少しでも港一団の良い面がいっそう伸ばせるように、又、私の育った団での良かったと思う点をうまく活用して少しでもお役に立てればと思います。

指導者としては、まだまだ未熟でスカウト達をうまくリードしていく自信も技量もありませんが、何かお役に立つことがあればうれしく思います。最後に、多くのスカウトが私たちの後に続き港一団の新しい機関車として、引っぱってってくれる事を期待しています。

シリメツレツに思うこと

カブ副長補 大塚 仁 子

原稿を書く前、ちょっと考えてみました。

私はカブ隊の何なのかしら……。副長補？リーダー？……「リーダー」辞書によると、指導者・首領なんて書いてあるけど、私はみんなを指導したことなんてあったかなあ。いいえ、その反対です。集会を見ていて、みんなから教えられることの方が、ずーっと多かったです。



とかく忘れがちな純粋な心を君たちはみんな持っている。そしてそれを思い出させてくれる。ちょっとかなしいことがあっても、みんなの顔を見ていると、そんなもんどっかに飛んでいっちゃうんだ。

夏休みを過ぎると、急にスカウト達が大人(?)になっているのに驚かされます。あんなオチビちゃんと思っていた子が、何だかたくましくなっていたり……。知らないうちにどんな成長しているのですね。でも今持っている純粋な心は、決して見失なわないで下さい。そして、「いつも元気！」で。

「キャンプの思い出」

元デンマザー 藤井 朋子

あの時は楽しかったね。

よくたべたねえ、デンマザーが一口も食べてないのに、おかわり！ おかわり！ つられていっばい食べちゃったよ。

シャウウッドの森のロビンフード達、森の中をかけ廻り、薬草を集めたり、武器づくり、弓技大会、組旗に輝くりボンが慾しくて、力を出し合ったね。

組長が国旗けいようを忘れちゃって、皆んなで早起きして、練習して、なのにー、なのにー、本番で「ドジー。」けど気を取り直し

てよく頑張ったよね。

みんながぐっすり寝ついたあとは、デンマザー、もうひと頑張り、その日の報告と、次の日の計画、夜中までかゝったよ。

隊長、リーダー、お父さん達は、もっと大変、目立たない影の仕事を、全部引受けて下さっているのだから、みんなの隊ヒも、次々に、キャンプで使う工作材料や、画用紙や、マジックに化けていったよ。

いつか誰だったか、「デンマザーお月謝！」なんて間違えた人がいたね。

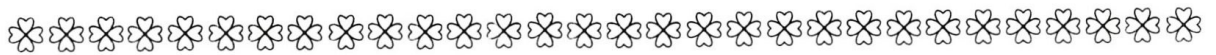
だあれも、お月謝も、お月給も、もらってない、みんなたゞのお手伝い。

「貴女の隣りにすることは私にしたのと同じです。」とイエス様がおっしゃっているから。

君達が他の人達に何かをするのがうれしい大人になって欲しいと願いながら、みんなお手伝していたよ。

楽しかったキャンプの思い出に、みんなも次に続くスカウト達に、この楽しさを、お返しして行けるように、と、スカウティングに、はげもうね。

♡スカウティングIIスカウト活動のこと



カブ隊・恐怖の体験とその後

前シニア隊長 原 陽一

デンマザー 「さあ、これからみんな、お化け屋敷に行くのよ。」

組長 「前の組が行ったら、押し入れからガイコツが出てきたらしいぞ。みんな、ちゃんとして来いよ。」

ついこのあいだカブ隊に入ったばかりの少年Aは、この言葉を聞いて震え上がった。カブのキャンプはおもしろい、という宣伝に引かれて秩父の山奥まで来てみたものの、やはり来るべきではなかった。とり返しのつかない誤った選択をしたのではないか、という不安が脳裏をよぎった。予感的中した。恐怖の体験の後、どうにかユースホテルまで戻ったが、その夜は一睡もできなかった。

こんな恐ろしいカブのキャンプに、しかし少年Aはその後も足を運ぶようになった。どうやら、あの時の選択は、やはりとり返しのつかないものだったようである。しかし幸い、誤った選択ではなかった。

すばらしいスカウトだった方、バスピクの時は、シニア隊長としてカブ達にこまやかな心使いをして下さいました。

シニア隊長

朱 鴻梁

二十五周年おめでとう。カブとぼくの年は同じなんです。僕のカブの頃の思い出は色々あるけれど、その中から一つお話ししましょう。あまり良いことではないけれど、当時は教会の階下講堂に七つの部屋があり、一組と二組の間はうすい板カベで仕切られていました。僕は二組（当時、一組と二組は犬猿の仲でした）で厚さ一センチの板を組集会中よくたたき合ったものでした。また床には、やつと一人が下へ入れるフタがあり、デンマザーの目を盗んでは、床の穴にもぐり込み、隣の一組に襲撃をかけ、一組と二組は、デンマザーにペソをかかせたものでした。今思えばくだらないことだが、これが集合一の楽しみでした。リーダー達にもたくらみがあり、床のフタを開かない様に数人で乗り、僕たちは、暗やみの恐怖を味わったものでした。杉原隊長におしかりを受けたのもその時でした。これが僕が一番の恐怖の思い出です。なを色々の思い出が数多くありますがカブだけで終わらずにBS・シニアと上進してきた事が自分にとつてとても良い事が多かったのです。カブのみんなもカブだけでなくシニアまで上進してください。シニア隊はみんなを待っています。



カブの集会

シニア隊インストラクター 大内 真人
ボーイ隊副長補

ピーピビビの合図と共に皆が中庭に駆けってくる。僕は一組の組長だ。うん、今日も一組は全員来ているなと思うと心強い。いったい今日は何をするのかなという期待を胸に集合の報告をする。ピー、始まった。整列訓練だ。これはなかなかきまらない。やり直し！の声、何度もかかる。でもビシッとときまつた時のやったという感じ。あれは忘れられない次に部屋に入っただけかびん作り。みんな熱中しているせいか時間があつという間に過ぎてしまう。再び外で集合の笛。さあゲームだ、組対抗しつぽ取り。「みんな手を離すなよ」組長は責任重大・最後に二つの組が残った。ここを倒せばと皆の顔も必至。でも負けてしまった。来週こそはと心に誓う。最後の閉会式。矢章の発表がありいく人かがもらった。「大内君銀矢章二個。これからも頑張つて」と隊長から握手される。そうだ、来週からも元気な顔で集会に来なくっちゃ

大内リーダーが隊付の時は、大変お世話になりました。今はシニア隊でがんばっておられます。

ス

マ

イ

ル

カブ式登録か

四隊は今までボーイスカウトだけしか正式登録をしていなかったが、今年八月を目標として、カブが正式登録を行う。隊長は日野、隊委員長は太田、デンマザーは安藤、犬飼以上に内定しデンチーフは決っていない。

シニアは一度解散したが、又正式に行う事になった。

(西山)

(スマイル第三十号昭和二十九年一月二十九日

発行より)

正式発足するカブ隊

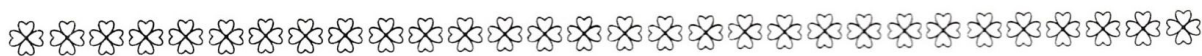
「オイ、あのコマカイのは何だい？」

「さあ……？」

「おや志水さん達も一緒だ。」

「おかしいなあ？」

今頃この様な会話は多くの人達には通じないであろう。それもそのはず、あれから既に一年、今では立派に成長したカブ隊の前身を指しての会話である。それも現在までに発展したカブ隊発生の因と云われるものは、ボーイスカウト仮入隊であった小学校中級生が余りに人数が多い為、プログラムを組む上に体力的な差というものが常に障害となりいろいろと検討の結果、先ず「ボーイスカウト見習」と云う様な奇妙な名前で、志水副長主とし杉



原副長補と私の三名がとりあえず担当し、集会も別に持つこととなったのがそれなのである。しかしプログラムだけは少しの見習の域を脱せず、多くにボーイスカウト的であったが、しばらくしてその筋の先生既に日野先生が来られ、そこで始めて「誓」「掟」が「やくそく」と「さだめ」となり、モットーも「いつも元気」という具合にすべて根本から変り、いよいよカブ的となったのである。

指導者としては目下交渉中の熟練の方が来られる迄、今迄担当して来た志水副長が引き受け、委員としては教員の津守真氏が決っていました。この様に万難に排して出来たカブ隊が本日ここに目出度く発足し、正式に我々ボーイスカウトの「弟」となった事は非常に喜しく、立派に成長する事を願うカブ隊の前進を心から祝おうではないか。

「イヤサカ」

遠山隊付

スマイル三十二号より

カブ隊長のメモ(第一回キャンプの報告)

第一日

設営の作業は暑さと人手不足で随分辛い。カブ達は初めのうちは一寸目を離すと直ぐどこかへ遊びに行ってしまうが、段々周囲の殺気だった？忙しさに気が付

いて、進んで手伝って呉れる様になった。「明日も斯んなに辛いのか？」と西野君が訊く。冗談じゃない。だが今日のテーマにもなっているサイトの「開拓」は、カブ達には少しきつかったのかもしれない。夕食前、遠山の金さん指揮の下に大がかりな薪集めをやった。

炊事は調子良く行って、カブ班が最初に「日々の糧」を唱う事が出来た。でも出来上りは余り芳しくなく、前代未聞の「辛えライス」だったが、それでも他の班の様に味が全然なくてショウユをかけて食ったり野菜が生でゴリゴリだったのよりはずっとよかった。

夕食後、炊事当番が食器を洗っていると雨が降って来た。しかしカブ班はびくともしない。ちゃんと明日の昼の分迄まきが倉庫に積んであるんだもの。

皆の中では西野君が一番寝相が良い。突然大浜君が起き上った。「志水さん志水さん、比れ捨てていい？」と大声で云ったかと思ふと横になってスヤスヤ、ごうごうと云う沢の外音を子守唄に、みんなはどんな夢を見ているのだろう。

第二日

朝食は味噌汁のお替りコンクール。五杯でカオル君が優勝。「嘘だ。僕四杯だよ。」あんなこと云って、最初の一杯を数えないよ。

朝礼、昨日の優秀表彰。「カブ班」犬飼班長誇らしげに前へ進み出る。美しい優勝リボンが班旗に付け



られた。続いて優秀炊事班「カブ班」オヤオヤ……。百戦練磨の名班長は下唇をかねてカブをにらんでいた。夕食の最中に猛烈な夕立。夜、雨はやみそうもない。しかし雨でできたえられた本部の連中はかへって元気だ。特に飯田さんはタコの名にはじず、上半身ハダカになっている。本部が応援歌等でさわいでいる頃、カブのテントはヒソリしていた。怪談が始まったのだ。赤いテントでは、西野迷人自作自演の大熱演を子守唄にまず畑中君がねて、次に我が四隊に伝わる怪談を一席私がやっている間に犬飼君もねる。西野君も私のウナル、キャンプソングを聞きながらねてしまった。片や青テントでは真打ちの、遠山五金鳥がつとめ終っても未だねない所へ時ならぬオヤツの配給があった。十時頃には雨もスッカリやんで美しい星守となった。

(スマイル三十三号昭和二十九年八月二十九日

発行より)

月の輪の坊やを向えて

今迄、カブのアニキとしていばっていた、月の輪の元気を連中がいよいよ我が四隊に、仮入隊として入って来ました。

やれやれ、さぞかしやかましくなるだろうな、なんていわないでかわいがってあげて下さい。でも、油断すると大変。何しろみんなすごいのはかりですからね。手旗

も知っています。ナワ結び、外国旗なんて、ヘノカップ。マキムスビの出来ない班長さんなんて、きっとコテンコテンですよ。

(スマイル三十五号昭和三十年一月二十二日

発行より)

志水カブ隊長いよいよお別れ

今日迄、長い間四隊と共に生活して来られた、カブ隊長志水さんが、大学を卒業されて、北海道は札幌に行かれることになりました。

向うでは、獣医さんとして牛や馬を相手に暮すのだそうです。住所はまだ分りませんが、次号でお知らせしましょう。

出発は二日、夜行で行かれるそうです。多勢のスカウトがお見送りすることをのぞみます。

カブスカウトの人達もぜひいって下さいね。多分、東京駅からだと思えます。

志水さんは、四隊のもっとも古いスカウトの一人で昭和二二年二月二日に仮入隊となりました。それからすぐ次長になり、六月には班長(ワシ)となり、八月に初級となりました。

なぜ、こんなおかしな記録になったかと云うと、その頃はボーイ・スカウトが出来てまもなく、まだ制度が定まっていなかったからなのです。



さて、二級一級と進まれ、去年の六月十八日、他の人と共に菊スカウトのマークを許されたのでした。

こう書いて見ると平凡ですが、志水さんには天才的特技があったのです。昔から四隊はソングの上手な隊として有名ですが、これは、志水さんなくしてはとても出来なかったでしょう。スカウトのソング・マスターとしては、日本一と云っても云いすぎないと思うのです。志水さんノサヨウナラ。

(スマイル三十七号昭和三十年三月二十六日

発行より)

ボーイスカウト東京第四カブスカウト隊は、隊委員に津守真氏、隊長に志水功氏を向え、霊南坂教会を育成団体として昭和二十九年六月十三日加盟登録されました。同年九月七日、カブ隊員として、梅本勉夫、山田誠、田中孝典、河合照彦、平地勲、富山博が追加登録されました。



昭和53年

テーマ

- 12月 世界のクリスマス
- 1 ほくらは天文学者
- 2 ほくらは設計者
- 3 おもちゃの国からこんにちは

行事

- 合同クリスマス礼拝
- もちつき大会
- 21日地区たこあげ大会
- スカウトサンデー
- 組、隊のお別れ会

昭和54年

- 4月 森の仲間達
- 5 ほくらの町
- 6 ものしり博士
- 7 銀河宇宙
- 8 ほくらは忍者
- 9 ほ
- 10 く
- 11 ら
- 12 パの
- ク

- 22日特別隊集会キリスト教大学へ
- バスピク青木ヶ原
- 8/2-8/5迄カブキャンプ「上田」
- 8日合同キャンプファイアー1日バザー
- 1日赤い羽根10日教会100年祭

- 1 日本のお正月
- 2 ほくらの総長
- 3 白銀の世界

- 8日合同礼拝
- 16日25周年記念式典
- もちつき大会
- 20日地区たこあげ大会予定
- スカウトサンデー
- カブのスキー
- お別れ会



カブスカウト隊活動報告

(昭和52年-54年)

○ 昭和38年以前は10周年記念誌を44年以前は15周年記念誌をごらん下さい。

昭和52年

テーマ	行事
4月	○上進式(4名)入隊式(20名)
5 世界の国からこんにちは	○29日特別隊集会キリスト教大学へ
6 グッドヘルス	
7 宇宙探険に行こう	
8 ロビンフットの冒険	○7/29-8/1迄カブキャンプ「清里」
9 ほくらの巣作り	○10日合同キャンプファイアー
10 ほくらの町	○1日赤い羽根 ○29日バザー
11 名コックさん	○3日特別隊集会「いもほり」「秩父へ」
12 カブのクリスマス	○合同クリスマス礼拝
1 日本のお正月	○もちつき大会 ○15日地区たこあげ大会
2 世界の仲間	○スカウトサンデー
3 カブの魔術団	○組、隊のお別れ会

昭和53年

4月 ほくらの仲間	○上進式(9名)入隊式(10名)
5 冒険の国	○21日特別隊集会流山4団カブ広場へ
6 大昔の野川	
7 日本のまつり	
8 戦国の武将たち	○8/27-8/29カブキャンプ「伊豆」
9 ほくらは円卓の騎士	○2日合同キャンプファイアー
10 ほくらは消防士	○15日赤い羽根28日バザー
11 カブ山の感謝祭	○3日特別隊集会「いもほり」「秩父へ」 ○26日教会感謝祭

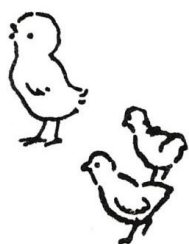
編集後記

○ 長いれきしのある隊、編集にさいして、いろいろのことがわかり、これをふまえて、ますます、大きくなってほしい。

○ 原稿をお願いしなにも書くことがないとおことわりを受けた時は泣きたい気持ちでした。これも長いれきしのうちとおもいます。

○ お忙しいところ原稿をお引き受け下さいました皆様、心から御礼を申し上げます、また表紙とカットを描いて下さった山本君のお父さま。かわいらしいカットを描いて下さったBS隊葛西君のお姉さま。その他父の会、リーダー 御協力ありがとうございました。

○ これを機に先輩はもちろんのことお家の方も土曜の午後足をはこんで来て下さいませようお待ち申しあげます。



(浦野・大塚)

♡ 紙面の都合上頁の組み合わせ、頁を割り当て制にしたためと、こどもさんにも読みやすく”できるかぎり大きめの字で”と注文。努力のたまもの……、お読みずらい点は御了承下さい。

♡ 原稿集めから印刷まで大特急。ポツポツの原稿で印刷へ：そして、最後の原稿が十一月三十日に到着、印刷屋さんへ日参して交渉を続け、割り込み……かけ込んで……

” ああ……もっと日時の余裕がほしかった”
 皆々様の数々の御助言を感謝し、またまた御意見をお待ちいたします。

(係)

発行日 一九七九年十二月十六日

編集者 大塚 仁子・浦野 須磨子

印刷人 境タイプ学園 ☎0432-540733

発行者 ボーイスカウト東京港一団

カブスカウト隊

東京都港区赤坂一―十三―六

霊南坂教会内